

# 30年のあゆみ

過去から学び 今を知り 未来へと

土浦市女性団体連絡協議会30周年記念誌

# 目 次

	頁
1. ごあいさつ・祝辞 .....	2
2. 30年のあゆみ .....	4
3. 座談会 .....	10
～過去から学び・今を知り・未来へと～	
4. 活動の記録 .....	12
交流・研修活動   ～つばさを広げて～	
社会活動       ～社会に目を向けて～	
協働活動       ～手を携えて共に～	
自主活動       ～学ぼうシリーズ～	
5. 専門部会活動 .....	29
総務部会	
研修部会	
広報部会	
6. 創立30周年記念事業 .....	32
～ともに語ろう土浦を！～	
市長講話・意見交換会	
7. 所属団体プロフィール .....	34
8. 会員のひとこと .....	40
9. 資料 .....	42
目的・組織図	
歴代正副会長名簿・団体名一覧 他	
男女共同参画の動き（年表）	
10. 実行委員会名簿・あとがき .....	48

## ごあいさつ

土浦市女性団体連絡協議会会長 今高 博子



この度、土浦市女性団体連絡協議会は30周年を迎えました。これも土浦市及び女性行政担当部署のご指導・ご支援、関係機関の皆様、会員及び地域の方々の温かいご理解・ご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

女性団体連絡協議会は平成4年、23の女性団体が集まり、田中きみ会長を中心に「民が行い、官は後押し」という官民一体の活動が始まりました。この行政の後押しは現在も一貫しており、改めて感謝申し上げます。

とりわけ1995年の「第4回世界女性会議NGOフォーラムin北京」では茨城県で唯一「女性の人権 土浦からスタート」のワークショップを開催し、各国の女性たちと人権と行動することの重要性を確認し合いました。今日に至る女性団体の「男女平等・女性の人権」の根幹をなす礎には市担当課の飯塚房恵さんや初代会長田中きみさん、北京NGOフォーラム団長の平田洋子さん諸姉のご功績を忘れることはできません。

「人生100年時代」高齢者から若者、男女すべての人が社会の中で生き甲斐を持ち、活躍する場を持つことができる時代です。女性団体も各団体が長年培ってきた「つながり」を生かして福祉・環境・食・教育など多様な分野で活躍しております。

これからも女性団体は各団体のパワーを結集し互いに尊重し次世代との協働も図りながら、男女共同参画の土浦を目指していきたいと思えます。創立30周年を機に土浦市、関係機関、各団体会員並びに地域の皆様のさらなるご指導、ご支援の程、心よりお願い申し上げます。

## 祝 辞

土浦市長 安藤 真理子



この度、土浦市女性団体連絡協議会が創立30周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴会におかれましては、平成4年の創立以来、30年の長きにわたり、男女共同参画の推進に大きな役割を果たしてこられました。また、創立の翌年から10年にわたり続けられた海外研修「土浦友好のつばさ」では、本市の女性リーダー育成を牽引していただきました。これもひとえに、歴代会長をはじめ、会員の皆様方の多年にわたる御尽力の賜物であり、心より感謝を申し上げます。

本市では、平成24年に「男女共同参画都市」を宣言し、昨年、10年の節目を迎えました。この間、全国的にも様々な分野において女性の地位向上が進められたところです。こうした、現在の女性の活躍は、皆様方が声を上げ、先頭に立ち、時代を切り拓いてこられた結果であり、深甚なる敬意を表します。

今後、さらに人口減少や少子高齢化が進行していく中、性差や価値観などに左右されず、誰もが活躍できる「ダイバーシティ」が益々重要となってまいります。皆様方におかれましては、豊かな経験と実績を活かしていただきながら、土浦の未来を築くパートナーとして、今後も一層のお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、土浦市女性団体連絡協議会がこの30周年を契機に、次の40年、50年への新たな出発点として、益々発展されますことを心からご祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

土浦市議会議長 小坂 博



土浦市女性団体連絡協議会が、このたび創立30周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。市議会を代表いたしまして、心よりお慶び申し上げます。

土浦市女性団体連絡協議会は、平成4年4月に発足し、今高会長をはじめ、歴代の会長、会員の皆様方におかれましては、地域活動のリーダーとして御活躍され、市政発展のため、多大なる御尽力を賜り、深く敬意と感謝を表する次第でございます。近年、社会経済情勢が大きく変革を遂げ、あらゆる分野で女性の活躍が期待されています。女性も男性も互いに人権を尊重し、性や世代にとらわれず互いに認め合うことで、それぞれの個性と能力を十分に発揮できる社会づくりが、目指すべき男女共同参画社会の実現に繋がるものと考えます。

今後も会員の皆様におかれましては、本市との協働のもと、熱意溢れる活動により、男女共同参画行政を推進する担い手として、さらなる活躍を期待しております。私ども市議会といたしましても、皆様とともに、理想の男女共同参画社会の実現に向けて力を尽くしてまいり所存でございますので、更なる御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この記念すべき30周年を契機に、土浦市女性団体連絡協議会がさらなる飛躍をされますとともに、会員の皆様の御健勝と御活躍を心から祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

元女性センター所長 飯塚 房恵



土浦市女性団体連絡協議会設立30周年記念おめでとうございます。

平成3年、第5次土浦市総合計画に「女性社会参加」として位置付け、女性行政係が教育委員会女性青少年課内に設置され、同年市民2000人を対象に、「女性問題に関する市民意識調査」を実施。配布と回収は「婦人団体連絡協議会（田中きみ会長）」の協力により、有効回収率77%を得ることが出来た。この調査結果を踏まえ、女性の社会参加推進のための環境の整備が必須であると認識し、まずは勉強の場として国立・県立婦人会館等への人材派遣、市の委員会、審議会への女性の登用。更に団体を拡大し「土浦女性団体連絡会」を組織して、文部省依頼事業、女性の社会参加特別推進事業の実施。更に、1995年世界女性会議NGOフォーラム参加を目指し、「土浦女性友好のつばさ」を結成した。

平成5年企画部に設置し、市全体で取り組みが始まった。平成6年に女性の行動計画とも言われる「土浦女性プラン21」を策定、より一層女性の活動が広がった。平成9年女性行政課を市長公室内に設置、同年女性の活動拠点として「女性センター」をオープンし、様々な事業を展開し、女性が生き生きと輝き活動する場を提供、更に市民の活動の場となった。女性問題の理解が難しい時代背景の中での女性行政の取り組みは、困難を極めたが、当団体と共に歩み、連携を密にすることで、各事業において素晴らしい効果をもたらした。

また、多くの若い人材が育ち、リーダーとなって活動を継続し、行動力・チーム力は複雑化する地域課題に官民一体となって取り組まれ、その役目は重要性を増すものと思う。土浦らしい「男女共同参画社会」実現のために、ご活躍されることを期待しております。

# 土浦市女性団体連絡協議会30年のあゆみ

1950年代に始まる高度経済成長に伴い、人々の生活が変化し、消費者問題が社会問題として顕在化した。土浦でも様々な歴史を持つ婦人団体を集め啓発活動が始まった。中でも長年地域活動で培った経験を持つ田中きみさんは、際立つリーダーだった。辛口を飛ばしながらも面倒見の良さ、包容力がある人柄は、多くの人を集める力になった。1977年土浦市消費生活連絡協議会の会長となり、行政との連携のもと消費者問題は順調に滑り出した。しかし、田中さんはここで止まらず、男女共同参画社会の実現に舵を切る。田中さんの団体は、女性の生活意識に関する調査を実施。女性が消費の問題だけでなく、一人の人間として自立と責任意識を持ち社会参加へと、講演会、国際交流と啓発活動を開始。行政（青少年課）と連携し、1992年土浦市婦人団体連絡会を発足した。

(真山 記)



初代会長 田中 きみ氏

## 土浦市婦人団体連絡会設立

「広島平和記念式典」へ参加開始（以後毎年実施）

「1992ながの」の日本女性会議へ参加開始  
(以後毎年実施)

## 平成4（1992）年度

「さわやか土浦女性のつどい」事業開催



## 平成5（1993）年度

第1回土浦女性友好のつばさ'93（タイ・シンガポール）

県立婦人会館での研修  
流通経済大学で女性学を学ぶ



## 平成6（1994）年度

土浦女性友好のつばさ'94（タイ）

## 平成7（1995）年度

土浦女性友好のつばさ'95

第4回世界女性会議in北京 NGOフォーラム参加

土浦女性団体だより『つどい』創刊



開会式と  
ワークショップ



第1回茨城県ハーモニー功労賞受賞

## 平成8（1996）年度

かすみがうらマラソン大会へ参加協力



スタート風景



ゴール後のバナナ配り

土浦女性友好のつばさ'96（タイ）

## 平成9 (1997) 年度

土浦市女性センター オープン (ウララ2)  
記念講演 山下 泰子氏

土浦女性友好のつばさ'97  
「タイ〜土浦・ネットワーク」シンポジウム開催



## 平成10 (1998) 年度

土浦市女性団体連絡協議会に名称を変更 (婦人を女性に変更)

土浦女性友好のつばさ'98  
(ノルウェー・デンマーク)



土浦市女性センター オープン1周年記念講演 有馬 真喜子氏  
第一回女性センターフェスティバル (以後毎年開催)

## 平成11 (1999) 年度

土浦女性友好のつばさ'99  
(スウェーデン・デンマーク)

男女平等に関する  
「土浦市職員の意識・実態」調査実施



## 平成12 (2000) 年度

土浦女性友好のつばさ2000  
国連特別総会「女性2000年会議 in NY NGOフォーラム」参加



国連ビル



アナン国連事務総長のスピーチ

**平成13 (2001) 年度**

女性模擬議会開催



議長 田中 きみ氏



**平成14 (2002) 年度**

会長に井坂たけ氏就任

土浦女性友好のつばさ2002 (韓国)  
(つばさ事業終了)

**平成15 (2003) 年度**

女性センターフェスティバル  
～土浦女性友好のつばさ10周年～  
記念講演 中野 洋恵 氏



**平成16 (2004) 年度**



土浦市女性市議会議員との意見交換会

**平成17 (2005) 年度**

土浦女性友好のつばさ参加者へのアンケート調査実施

**平成18 (2006) 年度**

尼崎市と県内6市の女性の行政参画登用状況調査実施

**平成19 (2007) 年度**

「ねんりんピック2007茨城」へ協力

## 平成20（2008）年度

会長に眞山淑枝氏就任

スーパーのレジ袋の削減を進める市民会議に協力

所属団体への活動状況のアンケート調査実施



## 平成21（2009）年度

「まちづくりへのアンケート調査」実施

## 平成22（2010）年度

土浦協同病院移転反対の署名活動



まちづくり女性懇談会



## 平成23（2011）年度

東日本大震災時の土浦市の現状についてのワークショップ  
— 語り合おう震災 — 報告書・要望書を市に提出



自主事業「学ぼうシリーズ」をスタート（以後毎年実施）

## 平成24（2012）年度

土浦市男女共同参画都市宣言式典



記念講演 吉永 みち子氏



## 平成25（2013）年度

男女共同参画センターフェスティバル



寸劇「昔話 桃太郎現代考」



中川市長も出演



## 平成26 (2014) 年度

男女共同参画センターフェスティバル  
「震災後・私たちは～災害時のおんなちから～」



講師 樽川 典子氏



ワークショップ風景

## 平成27 (2015) 年度

土浦市役所の移転に伴い  
男女共同参画センターが本庁舎2階へ移転

## 平成28 (2016) 年度

会長に今高博子氏就任

男女共同参画センターフェスティバル  
「ひとりひとりが自分らしく生きる社会へ」  
土浦市と共催スタート



1期生議員との意見交換会

## 平成29 (2017) 年度



新図書館「アルカス土浦」見学会



パープルリボン（女性に対する暴力の根絶）  
ツリーを市役所内に設置（毎年実施）

## 平成30 (2018) 年度

第17回「世界湖沼会議サテライトつちうら」に参加協力



霞ヶ浦の恵みを提供



市議会議員との意見交換会

## 令和元 (2019) 年度

第74回「いきいき茨城ゆめ国体」(相撲競技) 協力



## 令和2（2020）年度

パープルリボンとオレンジリボン（児童虐待防止）の  
リボンツリーを市役所内と各公民館に設置



ライトアップされた  
土浦駅前



防災における女性の参画について  
「今回の台風から学んだこと」の提言書提出

## 令和3（2021）年度

「コロナ禍における生活と意識に関する  
アンケート調査報告書」作成・配布



男女共同参画×市民協働フェスティバル

「～多様性の中 支え合い 暮らしを守る 共生のまちづくり～」

講師 浅野幸子氏（まちづくり市民会議が加わって合同開催、

コロナ禍により、講演会のみオンライン配信）

## 令和4（2022）年度

男女共同参画都市宣言10周年記念式典



ウクライナ大使にロシアの侵攻に抗議する  
決議文と市民からの支援金を渡す



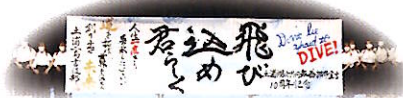
記念講演 家田莊子氏



茨城県立土浦第一高等学校  
華道部パフォーマンス



小山市男女共同参画推進協議会視察団  
との意見交換会（ツリーの前で）



茨城県立土浦第二高等学校  
書道部パフォーマンス

男女共同参画×市民協働フェスティバル

「地域に密着した多世代・多様な共生のまちづくり」

講師 菅原広豊氏

土浦市女性団体連絡協議会30周年記念イベント



安藤市長の講話



座 談 会

- 【参加者】 井坂 たけ 第2代会長  
 眞山 淑枝 第3代会長  
 今高 博子 現会長  
 木野 英子 理事
- 【司 会】 栗栖 恵子 元副会長
- 【サポーター】 篠 捷子 副会長



**栗栖** ただいまより会長経験者にお集まり頂き「過去から学び、今を知り、未来へと～」のテーマに沿って座談会を始めます。私は司会の栗栖です。サポートの篠さん

です。よろしくお願いいたします。

土浦市は1992年に23の女性団体が「土浦市婦人団体連絡会」を組織しました。ここで私から初代会長の故田中きみさんの功績の一部をご紹介します。

田中さんは「私たちはあと10年足らずで21世紀を目の当たりにしている今、社会は大きな転換期を迎えています。ライフスタイルや意識も変わってきています。このような時代こそ女性が団結して進むことが必要である」と語っています。そして開催したのが「女と男ふれあい土浦まちづくり」事業でした。

国際交流部会報告を眞山さんが「タイ女性の現実も知ってほしいと語っていた」と記しています。これがきっかけとなって、「友好のつばさ」事業が展開されていきます。また、学習部会報告を今高さんが担当し、「性別役割分担意識」「老後と介護」「女性の地位向上」というテーマで女性学を学んだことを書いています。それらの内容が現在にも受け継がれています。

田中会長、そして井坂さんや当時の会員が引いたレールの上に現在があると思います。

次に井坂会長に引き継がれますが、団体運営に対する思いなどお聞かせください。

**井坂** 田中会長から引き受けることは予想していなかったのが戸惑いました。新しい事業について時代的にも転換期にあり、会長交代

は団体設立10年目、原点に戻って「代表者会議」を開催し、交流と情報交換を行いました。これにより各団体が地域に根差した活動を行っていることが理解でき、それらを生かしながら女性団体の進展にもつながっていききました。

また、平成5年から始まった「土浦女性友好のつばさ」が10年目を迎え終了となりました。私は最後の韓国研修でしたが、参加した会員がその後、どのように活動しているか、検証を行い、女性施策に反映しようと思いました。会員間での意識の格差を課題として進めていきました。

**栗栖** 学んだことをどう生かすか大事ですよ。次に眞山さん、長く団体と関わってきたと思いますが



**眞山** 田中さんから私に女性団体を共に創ろうと言われ、それから30年団体と関わってきました。会長として様々な分野での女性の活動を目指しました。行政とは

緊張関係を、会員とは透明性と対話を大切に、家庭問題から社会問題まで目を向けようと意識改革に努めました。

土浦協同病院移転については反対署名活動を行い、団体としては画期的な社会活動でした。また、東日本大震災では被災の現状把握を行い市に提言をしました。

平成24年、市は「男女共同参画都市」宣言し、会長として宣言文作成に関わりました。理論的に立ち向かうため、「学び」の大切さを考え、「学ぼうシリーズ」事業を始めました。何ができるかを模索し、女性の力を信じてきました。

**栗栖** 「女性が輝く社会」など言われ始めた頃会長になられた今高さん、いかがでしたか。



**今高** 土浦市がまさに行政の機構改革で課から室に降格というやや女性施策の後退かの時で、会長を引き受けました。先輩諸姉が築いてきた女性団体の力を後退させてはならないという思いで活動してきました。

市の男女共同参画推進事業の企画運営にも官民連携で参画し、JAや商工団体、学校等との協力関係を築いてきました。

2020年2月コロナ禍の未曾有の生活実態を記録に残そうと市民の貴重な体験・思いを冊子にまとめました。当時、女性へのDVや児童虐待なども急増しました。啓発のためのリボン1,500個を会員で作成し、ツリーに飾り全公民館に置いて市民への周知を図りました。

「ロシアによるウクライナ侵攻に抗議する決議」もいち早く社会に発信し、決議文を持って大使館を訪問。一日も早い平和を願い募金を送らせて頂きました。

**栗栖** 地域の社会活動から世界への発信もしたね。さて、これからの活動についていかがですか。

**井坂** 高齢者も高齢者なりの役割がある。地域の中に入って何が問題かを気づいて一緒に汗を流していくことが大切だと思います。まず、互いの活動を理解し、尊重し合うことが大事と思いました。地域を巻き込むことが大事と感じました。県女性連盟の研修の時に講師の眞山さんの活動を聞いて女性団体の会員の専門知識を女性団体活動の中で生かすことが出来なかったことを反省しています。

**眞山** 各団体がそれぞれの役割を發揮すればどれほど役に立つか、もっと各団体が認識することですね。高齢化が進むと組織が弱体化するという大きな問題、知恵を絞っていかに地域の人たちを誘い込むか、それをやるのが女性団体だと思う。

**栗栖** お二人の元会長さんからの期待を受けて現会長の今高さんいかがでしょうか。

**今高** まったくお二人の言う通りだと思います。高齢化が負のイメージで言われますが私はそうは思っておりません。現役の女性たちは社会の第一線で活躍していただき、高齢の方々は今まで人生で培ってきた「つながり」で活動する、これは非常に意義のあることだと思います。

昨年からフェスティバル事業を地区長さんたちと一緒にやることになりました。各団体の活動分野を生かして地域の方々と一緒に語り合う、一緒に

活動する、変化を「チャンス到来」としたいです。

**栗栖** 三人からいろいろお話を伺いました。木野さんのような感想を持ちましたか。



**木野** 「私たちの健康は私たちの手で」と言うキャッチフレーズに惹かれて食生活改善推進員になりました。まずは地域の皆様と普及活動を進めるなか、団体の方々

と知己を得て普段の生活からこそ男女共同参画が実践されるべきだと思に至りました。数年前から男性も増え一歩ずつ前進しています。また、災害時の炊き出し等の経験から、より良い避難生活の運営に女性の視点から考えや意見を取り入れるよう行政と連携し、積極的に関わって行こうと思います。

**栗栖** 篠さんは副会長としてどのように関わってききましたか。



**篠** PTA役員として、子どもの問題や親の立場などを研修する機会は多かったが、女性団体に参加したことで女性の人権や地位などを学ぶ機会を得ることが出来ました。現在は多くが高齢者となり、若い会員が増えないことが残念です。

改めて、30年間のさまざまな活動を共有し、広く伝えることが大事なことだと思います。各地域の中でも重要な立場で活躍されてきたと思います。これからも更に大きく声を出し、女性の力を發揮していくことが大事なことではないでしょうか。

**栗栖** これまで私たちは行政と共に男女共同参画推進の活動をしてきました。

しかし、今、私たちは混迷の時代に直面し、不安定な社会に身を置いています。こんな時だからこそ、足元を見つめ、一人ひとりの夢が叶えられるよう、その人らしく未来に向かって新しい一歩を踏み出す女性団体であることを願っています。これで座談会を閉じさせていただきます。



01 交流・研修事業 ～つばさを広げて～

土浦友好のつばさ事業とは

日本の高度経済成長の陰で東南アジアからの出稼ぎ労働者が増える中、土浦の一角に通称「トルバンコク」という風俗街が出現。そこでは主にタイ女性がパスポートを取り上げられ、売春を強要されるという深刻な人権侵害の事態が起きていた。なぜこのような問題が起きてしまうのか、私たちはアジアの女性たちと共に、まず何をなすべきかを考えて、女性団体結成の翌年1993年につばさ事業の交流・活動を開始した。

土浦女性友好のつばさ'93  
タイ王国・シンガポール共和国

訪問国：タイ王国・シンガポール共和国  
派遣人数：岡山初子団長 団員14名 事務局3名  
訪問日：1993年11月28日～12月3日

\*タイ王国

バンコク市の3か所の機関・施設を訪問した。初めに文部省社会教育局を訪問。小学校6年間は教育費無償で中学からは自己負担。女性の識字率は低いとのことだった。次に国家女性問題委員会を訪問する。女性に関するプラン策定、実施機関。子どもが風俗業界で働くことに親の意識も低く、売春も女性だけが罰せられるという不平等な実情を聞き、タイ女性の人権侵害についての根深さを感じた。次には民間団体の女性の地位向上協会を訪問した。ここは売春やレイプで傷ついたり、過酷な労働から逃げ出してくる女性たちの緊急避難施設と乳児院、識字教育や、職業訓練など社会復帰のための様々な施設があった。しかし、活気あふれるタイの観光産業は手っ取り早く女性を性産業に駆り立てて外貨を稼ぐという悩みを話してくれた。



\*シンガポール市

訪問先：日本人会婦人部訪問

日本のデパートが軒を並べ、日本企業の進出を日本軍占領時代にかさねて「第2の占領」と呼び、対日感情は厳しいものがあると聞いていた。この様な中、現地の日本人会婦人部を訪問。児童福祉施設や高齢者・障がい児者施設等でのサポートのボランティア活動を20年以上継続していることで、少しずつ理解されるようになったとのこと。地道な活動を通して互いに尊重や理解を深めていく市民同士の交流の大切さを改めて思った。



土浦女性友好のつばさ'94  
タイ王国

訪問国：タイ王国  
派遣人数：坂本喜久江団長 団員14名 事務局2名  
訪問日：1994年11月13日～18日

タイ北部のチェンマイの文部省社会教育センターでは、海外への出稼ぎ女性の増加、深刻な売春の低年齢化、そしてエイズ問題の話しを聞いた。また、山岳民族のための縫製、車の修理などの技術の職業訓練を行っていた。

バンコクでは、女性の地位向上協会を再訪し、前年度の団員から預かった支援金などを渡した。そして、土浦周辺で刑事事件になったタイ女性たちの深刻な実情の記事を渡した。「これは非常に役立つ資料だ」と感謝された。



土浦女性友好のつばさ'95  
「第4回世界女性会議IN北京」

訪問国：中華人民共和国（北京市・懷柔市）  
派遣人数：平田洋子団長 団員15名 事務局2名  
訪問日：1995年8月29日～9月8日

世界女性会議とは

女性の地位向上を目的として国連主催の5～10年毎に開催されている国際会議。1975年第1回での「平等・開発・平和」をテーマとしたメキシコシティ開催以降、女子差別撤廃につながる行動計画などを採択。95年北京での第4回の会合では、女性のエンパワーメントをキーワードとする行動綱領と北京宣言を採択した。



1995年8月30日午後5時、第4回世界女性会議NGOフォーラムの開会式が、北京オリンピックスポーツセンターで行われ、世界各国より参加した18,000人が埋め尽くした会場は熱気と興奮に包まれ、世界中の女性たちと肩を組みバンダナを振り、会場内が一つになった。

会場中央には、大会シンボルマークに第一回世界女性会議からのスローガン【平等・開発・平和】が書かれた布がアドバルーンにつるされて浮かんでいた。

ガートルード・モンゲラ事務局長は「女性の力、権利、貢献を否定できない。NGOフォーラムの参加者が、政府派遣団と協力して行動、責任を明確にした綱領を出すように働きかける」と語った。

スパトラ・マスデット議長は「男女共に、女性のエンパワーメントで全てのレベルで世界的構造と課程を変革し創造していこう」と話した。

今回のNGOフォーラムのテーマは「女性の視点で世界を見よう」であり、開催地が中国ということで、アジア各地の草の根活動をしている女性やアフリカからの参加者が多かった。

世界中から集まった女性の持つパワーに圧倒されたが、その後日本各地でも「エンパワーメント（力をつけること、連帯して行動すること）」が、合い言葉となり、女性たちの活躍の場が広がった。（篠記）



スローガンとシンボルマーク



◀戦争地域の子どもの絵

### 土浦女性友好のつばさ'95

#### 「人権・土浦からのスタート」ワークショップ(発表内容)

1980年代よりアジア(特にタイ)から出稼ぎできた女性たちがシパサポートを取り上げられ、管理売春行為を強いられ人間らしさを奪われている事実には私たちは行動を起こし、「土浦女性友好のつばさ」事業を立ち上げ、1993年より2度タイ国を訪問し、女性問題について現地調査・研修を行った。また土浦界限におけるタイ人女性の現状を警察署、医療機関、児童相談所や保護相談機関などへの調査、人身売買やHIV感染、不法滞在、無国籍ベビーなど、ますます深刻化、拡散潜行する人権侵害の実態をまとめ、ワークショップで発表した。

開催日時：1995年8月31日

開催場所：チンスーシャンホテル

参加者数：120人

参加国：中国、マレーシア、タイ、インド、パキスタン、  
アメリカ、ドイツ、フランス、イタリア、  
ルーマニア、日本



発表とフリートーキングの中でインドの女性からは「皆さんの売買春の取り組みへの勇気に敬意を表する。自分も20年間女性への暴力と権力による人権侵害などの問題に関わっている」とインドの実情を話され、アメリカ人からは「なぜアジアの国から日本に売春目的で来るのか?」「アメリカでも売春問題は深刻、10代の母親が増え、貧困が貧困を生んでいる」などそれぞれの国の実情や問いかけなど活発な意見交換ができた。人間としての尊厳を大切にする社会を目指そうという土浦からのメッセージは世界各国の参加者と共有し、「人権」について話し合い、考え、立ち向かう次の一步をこの北京からも踏み出すことができた。



私たちのパフォーマンス



海外の取材クルー

「第4回世界女性会議IN北京」で茨城県唯一のワークショップ「人権…土浦からのスタート」を開催した。事前に取材・研究を重ねた集大成として臨んだワークショップ。タイ女性の売買春の実態というテーマだったが、来場の各国女性たちから共感が得られ、十分な成果をあげることが出来た。

世界女性会議は、12の行動綱領を打ち出し、北京宣言で幕を閉じた。その後の各国における女性施策への指針となったが、北京に集まった女性たちの情熱を風化させることのないよう切に思う。  
(平田 談)



会場内の風景

**土浦女性友好のつばさ'96**  
タイ王国

訪問国:タイ王国  
派遣人数:田中龍子団長 団員10名 事務局1名  
訪問日:1996年11月18日~24日

はじめの訪問地ピサノロック県庁では、女性の地位向上と男女共生社会実現への取り組みが、行政の施策とともに地域の女性リーダーによって地道になされていることを知った。タイ国のエネルギーと将来への展望を見た思いがした。

バンコクでは郊外にある女性のための職業訓練所を訪問した。訓練生は全国から集まるそうだ。14才~35才の義務教育を終了しても経済的な理由で中学や高校に行かれない女性たちの場所だ。売春をした女性やエイズ感染者はまた別の訓練所へ行く。

今回の訪問先で会った女性たちは実に堂々として社会に貢献しており、大いに啓発され、たくましさを感じた。



**「タイ・土浦ネットワークシンポジウム」**  
準備委員会

訪問国:タイ王国  
派遣人数:平田洋子団長 団員3名 事務局1名  
訪問日:1996年11月17日~26日

「土浦女性友好のつばさ」が5周年を迎え、駅前再開発ビルが完工し、女性の活動拠点となる「女性センター」がオープンする。その記念事業として土浦市婦人団体連絡協議会はアジアフォーラムを計画し、準備委員会を結成して、タイの地域リーダー達を招聘することを決定した。

出席予定の6名の方は、主に女性問題に取り組み活動されている方々である。この出席依頼交渉が順調に行われ、快く受け入れられた背景には、3年間のタイ研修の継続と交流の実績があったからである。まさに「継続は力なり」で、準備委員会は目的を果たすことが出来た。



**招 聘 者**

**バンコク**

カニタ・デヴィンブクダイ 公共福祉局・社会事業専門監督官、障がい者リハビリテーション委員長  
チャレームスリ・ダマブトラ 婦人財団会長(女性の職場での地位向上計画相談役)

**ピサノロック**

プラニー・バラングフォン ピサノロック地方女性地位向上委員会事務局長、  
ピサノロック県地域開発事務所所長  
ワンナー・クライシチポン ピサノロック県議会議員、ピサノロック地方女性地位向上委員会委員  
チャンタナ・チャンバンチョン ナレスアン大学教育学部教授

**チェンマイ**

ウティット・ウイライケオ チェンマイ地方社会教育センター所長



## 土浦女性友好のつばさ 5 周年記念事業

タイ女性問題に取り組むリーダーたちを招いて「良きパートナーとしての共生を目指して」をテーマにシンポジウムを開催。これは過去 3 回のタイ国研修と北京の'95NGO フォーラムでのワークショップの成果を踏まえ、タイと日本の女性問題の認識を深め、良きパートナーとしての共存関係をどのように作り上げていくか話し合う機会を持った。

### 「タイ～土浦・ネットワーク」シンポジウム



実行委員長 平田 洋子  
(コーディネーター)

開催日：1997年11月5日  
参加人数：400人  
開催場所：県南生涯学習センター  
多目的ホール、  
女性センター・青少年センター

シンポジウムは平田洋子実行委員長をコーディネーターにカニタ・デブインクダイさんらタイの 6 名がパネリストとしてタイの現状を発表した。カニタ氏は'96年に「売春防止平定法」ができ、少年少女との売春行為については買春側も逮捕されるケースが多くなったと語った。また、女性問題について、NGOの立場でチャラムスリー・ダマブト氏はタイの子どもの売春は非常に減ったが他国から入ってくる生活困窮者の売春問題が課題になっているとのこと。ウティッド・ウイライケオ氏は学外教育に力を注ぎ、エイズの知識や予防についてビデオ、本、新聞などの教材で学習していると話された。



シンポジウム会場

次にタイの地域ごとの分科会が開かれた。バンコクの方科会では子ども・女性・高齢者・障がい者などの福祉の問題は家族の在り方を考える必要があるとの活発な議論や、チェンマイとピサヌロークの各分科会では社会で働く女性の受け入れ環境の整備や青少年の麻薬問題、女性政治家育成など日本とも大いに共通する話題で地域発展を熱く話し合われた。

離日するまでの間、幼稚園児や福祉センターでの障がい者との交流を持った。熱心な仏教徒である6人の招聘者は、快く受け入れてくれた等覚寺の住職との暖かい触れ合いに感動されていた。ご本尊の前では仏様へタイ式の拝礼で敬虔な気持ちを表していた。住職よりお抹茶の接待を受け、共に「荒城の月」を歌い歓談し、住職の撞く鐘の音を背に寺を後にした。

私たち女性団体は「女性の人権の尊重」を基本に据え、タイ女性の抱えている問題は日本女性のそして世界の女性に共有する問題であることを痛感した。男女平等の一層の推進に向けて、タイの女性たちと共に取り組まなければの思いを新たにしました。(平田 記)



各文科会の様子



書道・茶道のおもてなし

等覚寺にて



土浦女性友好のつばさ'98  
スウェーデン王国・デンマーク王国

訪 問 国：スウェーデン王国・デンマーク王国  
派 遣 人 数：若林道子団長 団員7名 事務局1名  
訪 問 日：1998年9月20日～26日

スウェーデン スtockホルム市の社会福祉局を訪問。1850年代から、女性の社会進出は顕著になった。労働だけではなく、男女平等への努力をしてきたと説明を受けた。次に訪れた主婦連合会では数々の女性問題を提起し、その影響力も社会的に認められている。雇用機会均等オンブズマンを訪問。議会、プレス、人種問題、児童、障がい者などの問題で活動している。ストックホルムで見た女性たちの姿は、自信とパワーがみなぎり、個人を尊重した政策がとられ「真の平等」が確立されていることを実感した。

デンマーク コペンハーゲン市の厚生福祉局訪問。国民は高い税金を払い、市税の半分以上が医療と社会福祉に使われている。福祉施設を訪れたがプライバシーとゆとりのある暮らしが守られている。「先進国」を肌で感じ、我が国を客観的に見つめ直すことができた7日間でもあった。



土浦女性友好のつばさ'99  
ノルウェー王国・デンマーク王国

訪 問 国：ノルウェー王国・デンマーク王国  
派 遣 人 数：基太村洋子団長 団員7名 事務局1名  
訪 問 日：1999年9月19日～25日

ノルウェー オスロ市では、政治におけるクォータ制の導入が、女性の政治への参加を後押しした。国会議事堂で、左派社会党のクリスティン党首（29歳で国会議員となり、37歳で党首）から、「日本は今、私の母の時代と同じです。日本も間もなくです。頑張って！応援します！」とエールをもらった。そこには娘さんも同席されていた。

デンマーク ファールム市の子供ケア施設の入り口に「子供は国の宝」との言葉が印象的だった。子供は国が育てるという考えが定着している。子供の施策を充実させることで、他市からの移住が増えたとの話に希望を持って帰国した。  
(山田 記)



クォータ制(Quota)

割り当て制と訳され、入学、入会、採用などの際に、あらかじめ一定の人数を割り当てておくこと。4分の1のクォーター(Quarter)と違う

**土浦女性友好のつばさ 2000**  
**国連特別総会「女性2000年会議」**



訪 問 国：アメリカ合衆国(ニューヨーク市)  
派 遣 人 数：櫻井公子団長 団員8名 事務局2名  
訪 問 日：2000年6月2日～9日

「NGO ジャパン グローバル フォーラム」主催のワークショップに参加  
テーマ：「人権・土浦からのスタート —北京その後」

私たちは5年前、北京で開催された「第4回世界女性NGOフォーラム」でのワークショップの後も調査・研修を続けた。風俗営業に関わる外国人女性の現状は変わり、長期滞在、働き場所の多様化、居住の広域化などに伴い、新しい問題が見えてきたことを「人権・土浦からのスタート—北京その後」として発表した。また女性の活動拠点である「女性センター」の設立までの経緯を報告した。

開会宣言で「次に女性に必要なのは行動」、記念講演で「女性問題は今、地球規模の課題。この改革の動きを止めてはならない」との言葉は心に残った。

つばさ事業の継続に多くの国の女性たちから高い評価を得、活発な意見交換が行われ、団員一同感激し、決意を新たにしました。



**土浦女性友好のつばさ'02**  
**韓国**



訪 問 国：大韓民国(釜山市・慶州市・ソウル市)  
派 遣 人 数：井坂たけ団長 団員6名 事務局1名  
訪 問 日：2002年11月11日～15日

事前研修の中で、韓国と日本に共通していることは、社会規範の根底に儒教の教えがあることが分かった。特に親や目上の人を敬う心と態度は韓国社会の根幹を成しており、社会の隅々に男性優位の考え方や習慣が根強く残っている。そんな中、1960年代の女性の社会進出などで、問題意識を持つ女性も増え、現状を打開するため、1996年に「女性発展基本法」という包括的な法律が施行され女性施策が急速に発展した。そのような韓国の実情研修の下、2001年に新設されたばかりの女性部省を訪れた。女性の政治参加推進の政策により、地方選挙で女性議員数が増えたそうだ。

女性開発院は、女性の能力開発のための教育、訓練などの支援業務を行い、国としての調査研究をする機関だった。次の訪問先は女性中央会。専業主婦などの自己実現を図るための支援を行う機関だった。訪問先の共通点は、女性への暴力根絶の政策や啓発活動などの取り組みが行われていた事、しかし、法の整備は十分でないとのことだった。

1998年金大中政権は、女性の権利向上に向けて多くの公約を掲げ韓国の女性政策を大きく前進させた。韓国を知る上での学習は、南北分断にはじまり、外交・経済・教育・環境・女性問題まで、日本と韓国はかなり類似、共通する問題も抱えていることを認識した。韓国を知ることから研修をはじめ、「—近くて遠い国は 近くて近い国へ—」となった。

## 社会活動 ～社会に目を向けて～

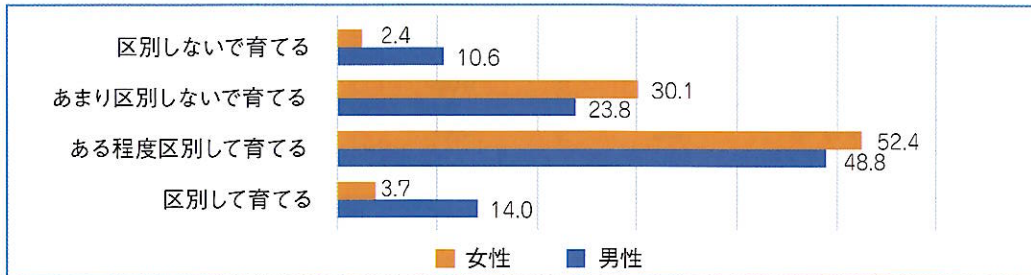
1999年 市職員1070名  
回収率87.3%  
男性938名・女性296名

### \* 男女平等に関する土浦市職員の意識・実態調査をして

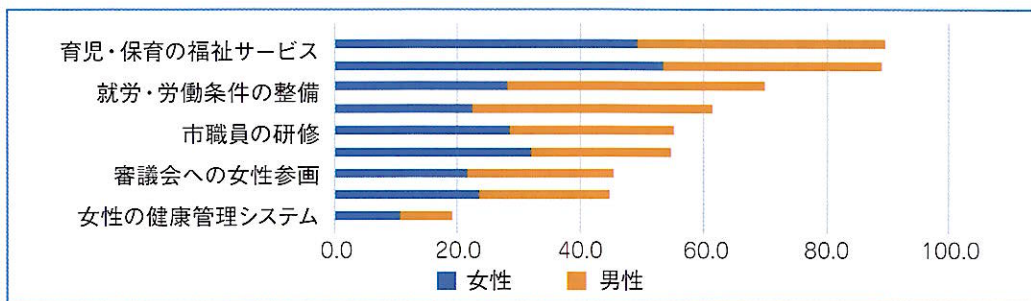
1999年「男女共同参画社会基本法」の成立と同時に私たちは自治体職員に対する男女平等の意識・実態調査を行った。施策策定・啓発業務の当事者である職員として市民へ意識向上と啓発するためにはまず、職員自身の意識・実態を知ることは必須と考え、調査をおこなった。

#### ◎ 男女平等に関する「土浦市職員の意識・実態」調査報告より抜粋

##### ○ 子育てについて



##### ○ 男女共同参画実現のための施策について（複数回答）



2000年には土浦市が市民に対して同様の男女平等に関する調査を行った。私たちは市の調査報告書と当会の報告書を照合し、そこから土浦市の男女共同参画に関する行政的課題はなんであるかを抽出、要望すべく膨大な作業にとりかかり、2001（平成13）年度の第2次つちうら女性プラン前期計画に4項目の要望が採用され新規事業にいられてもらった。かくして女性団体の3年間の調査活動は行政を動かした。行政も民間からの調査に誠実に対応してくれた。改めて話し合い、政策決定の場に参画することの重要性を実感した。

### \*市議会傍聴

私達の選んだ議員さん！

政治と行政、地域、生活へと理解を深め、より良いまちづくりへとつなぐ。傍聴すると自分の住む土浦の街がよくわかる。議員さんの活動ぶりもはっきり見える。傍聴は誰でも簡単にできる。市政に関心を持つことは当市だけでなく近隣市町村議会へ目を向け広域的関心の高まりに、やがて社会のおおきなうねりの一步を創り出す。市議会傍聴は女性団体の重要な事業です。



### \*初の女性模擬議会開催（2001年11月29日）

女性の視点からの意見や女性リーダー育成をまちづくりに反映することを目的に議長を田中きみ会長が務め、模擬議員を一般公募4名、女性団体22名で開催した。参加者からは、質問への答弁は丁寧だが、より詳細さが欲しい、市民も政治に関心を、次回開催を希望等の声があがった。依然として女性議員の進出は大きな課題。



## \* 尼崎市と県内6市の女性行政に関する調査 2006年実施

土浦市は2006年に「第2次つちうら女性プラン21-後期計画」を策定。施策の一つとして審議会などへの女性の参画率30%を設定している。先進的に施策を推進している尼崎市と県内6市の女性の政策決定の場への参画登用状況を調査し比較した。

### ○ 地方自治法第202条に基づく審議会等における女性の参画登用状況について

都市名	審議会等数	総委員数	うち女性委員数	女性比率 (%)
土浦市	23	351	64	18.23
水戸市	70	1051	293	27.6
つくば市	36	508	146	28.7
ひたちなか市	22	341	84	24.6
取手市	33	422	112	26.5
牛久市	23	340	73	21.5
尼崎市	45	663	185	27.9

## \* 土浦協同病院移転反対署名簿提出 2010年



私たちの生命を守る病院は、病人だけのものではなく、それに関わる人たちにとっても重要な場所です。

看護・介護などの負担の多くは、女性たちを中心とした大きな問題となっています。そうした状況を軽減する意味においても、土浦駅を拠点とした交通の便利性、馴染んだ地域性などの環境が望まれ、そのために反対署名活動を行いました。  
(眞山 記)

## \* 第17回世界湖沼会議 ～サテライトつちうら 2018年～

第17回世界湖沼会議が茨城県つくば市で開催。当女性団体はそれを機に世界の湖沼の現状と地元霞ヶ浦についての学習を実施した。同時に土浦市が開催した「サテライトつちうら」の会場では私たちの生活に直結する生態系から得られる“霞ヶ浦の恵み”わかさぎ・手長えび・れんこんの揚げたて天ぷら(六好会手作り)を各国からの参加者や市民に提供し、霞ヶ浦への共感を郷土料理で味わってもらった。

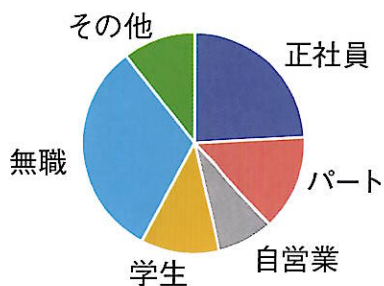


霞ヶ浦でとれたわかさぎ等を天ぷらにして提供

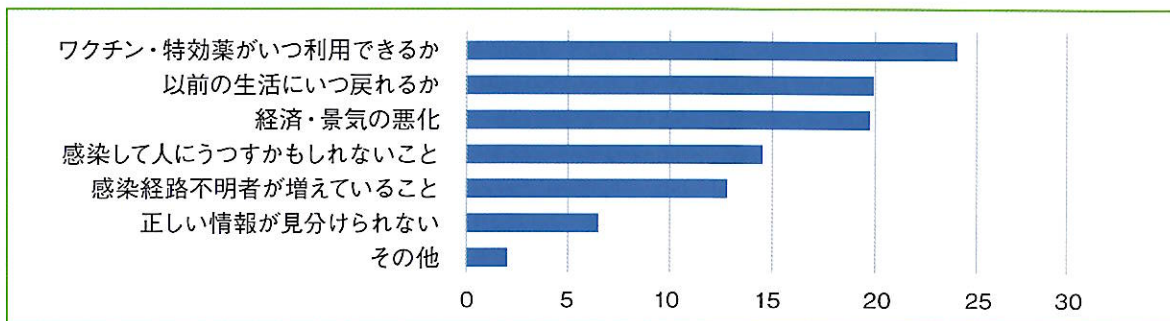
## \* コロナ禍による生活と意識に関するアンケート調査報告 2021年12月実施

2019年12月発端の新型コロナウイルスは一気に世界中に猛威を振るい、私たちは不安やストレス、マスク、手洗いなど生活は一変した。コロナ禍は人々の意識や生活をどのように変えたか、あとから記憶として「語る」にも限界がある。2020年11月、アンケート形式で市民の声を記録した。特徴的なことは記述欄に非常に多くの人々が様々な思いを書き連ねていたこと。なぜこのように自分の思いを書いたのか。社会や家族・友人たちと分断され「つながりたい、伝えたい、声に出したい」そんな気持ちが伝わってきたように思えた。「妻は自宅待機、給料なし」の声や、「普通の幸せは普通ではないんだ」という10代の言葉など記述欄の文言はすべて掲載し、土浦市にも提出した。

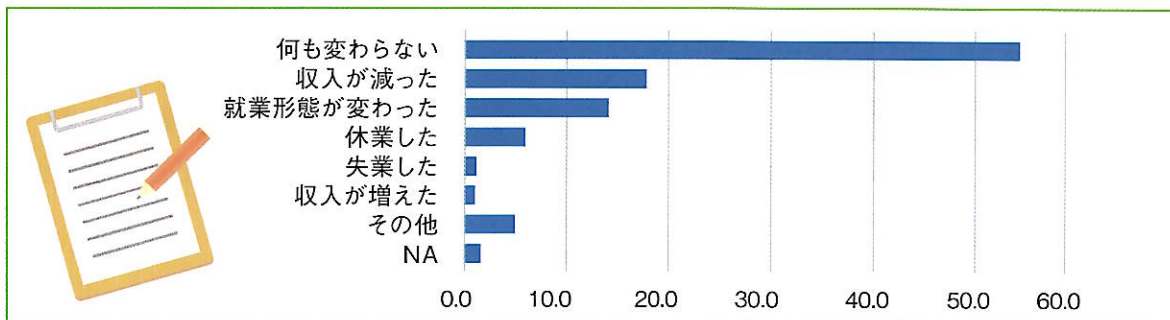
### Q あなたの職業は



### Q 今、特に気になっていることは何ですか (複数回答)



### Q あなたやあなたの家族で、仕事や給料などに変化はありましたか (複数回答)



### コロナ禍を体験して思ったこと、感じたことなどをご自由にお書きください

- ・毎日マスクをしなければならないのが辛い。顔が見えない分、相手の気持ちの読み取りを気にするようになった。身体的苦勞が増えた (10代女性)
- ・休校になって、勉強意欲が下がった。(10代男性)
- ・今まで当たりまえが、壊れてしまい、普通の幸せは普通ではないんだと感じた。(10代男性)
- ・「ウイルス」が悪いのに、「それを持った人」が悪いみたいな考えがとても悲しく感じる。(20代男性)
- ・老年の親に会いたいが、もし気付かずに感染させてしまったらと思うと怖くて会えない。このまま何年も会えない状態が続いたら、また入院等したときに、面会が出来ないという事態になるかと思うとやりきれない。(50代女性)
- ・自分を見直す機会になった。本当に大事なことに気付かされた。(60代女性)

## \* ウクライナ侵攻に断固抗議する決議表明・募金活動 2021年3月

ミサイルが民家に飛び込んでくる映像は衝撃を超え、現実のものとは到底思えない。一日も早く攻撃のやむことを願い、侵攻への反対の声を上げることは大切と話し合い、私たち女性団体は「ロシアによるウクライナ侵攻に断固抗議する決議」を表明した。

5月、ウクライナ大使館を訪問。安藤土浦市長と共にコルスンスキー駐日ウクライナ大使に決議文を渡した。小さな力だがウクライナ支援の意思を伝え、後日、会員が集めた支援金167,100円を届けた。



### ウクライナ侵攻に断固抗議する決議文

今、この時にも戦争で子どもを含む多くの尊い人命が失われています。報道を目にし、心落ち着かない日々です。このような武力で物事を解決方法は絶対にあってはなりません。戦闘行為を一刻も早くやめ、核兵器の使用を示唆し、他国を屈服させようとする蛮行に断固反対、抗議します。

ここに土浦市女性団体連絡協議会は、「戦争反対」言いたくとも声に出すことで命まで危ぶまれる人々の声も込めて、ロシアに対し、一連のウクライナへの軍事侵攻に対し、「戦争反対」と声を大にして訴えます。

政府においては、国際社会と緊密に連携し、「命」と「生活」が脅かされている人々に対して、一日も早く平和な日々が戻り、家族が安心して眠れる場所、食事がとれる人道支援を早急に行うことが緊要です。

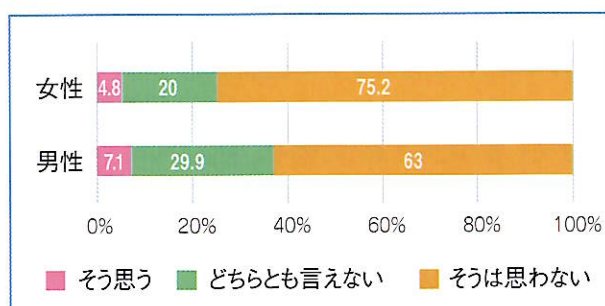
以上、決議します。

令和4年3月4日 土浦市女性団体連絡協議会

## \* 男女共同参画に関する高校生へ意識調査 2022年1月

私たち女性団体は創立30周年記念事業の一つとして、土浦市内及び近隣に通学する高校2年生へのアンケート調査を土浦市と共催で行った。これは高校生における男女共同参画に関する意識と社会への関心、将来の希望などについて調査した。その結果を土浦市の施策につなぎ、同時にこれからの若い世代と女性団体が連携し、男女共同のまちづくりの活動をしていくことを目的とした。

### Q 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、この考え方をどう思いますか



調査対象	県立土浦第一高等学校・県立土浦第二高等学校 県立土浦第三高等学校・県立土浦湖北高等学校 県立土浦工業高等学校・土浦日本大学高等学校 常総学院高等学校・つくば国際大学高等学校 霞ヶ浦高等学校 (以上9つの学校に通う高校2年生)
回答数	1,539通 (/約3,000)
調査方法	Web回答
調査期間	令和4年12月1日～令和5年1月31日

### \* 原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式（広島平和記念式典）

土浦市は非核平和都市宣言を1988年に行い、毎年広島市が開催する平和記念式典へ平和使節団を派遣している。各中学校の生徒たち16名、地区長会、青年会議所、女性団体から各々1名参加。被爆者の声を聞き、その思いを話しあい「平和と人権のつどい」で報告会をおこなう。記念式典参加はこれからもぜひ継続したい事業だ。核の脅威が高まる昨今、人々を無差別に殺害する核兵器との共存は絶対にありえない。土浦市が非核平和都市であることをしっかりと認識し、女性団体としても平和への行動をとることが今こそ求められている。



#### 派遣された女性団体会員の声

- ・ 平和を守るために自分にできることは何だろうか「非核平和都市宣言」を持つ土浦市民として私に与えられた一票を投じる。
- ・ 私たちは灯籠に火をともし、そっと川辺に浮かべました。淡い光に原爆犠牲者の冥福と世界平和の願いを込めて～
- ・ 今まで頭の中だけで理解していた原爆の非人道性や被爆者の平和を求める強い想いを心の中で受け止めることができたように思います。

### \* 日本女性会議

日本女性会議は、1975年の国連総会の理念である「平等・開発・平和」のもとに定めた国連婦人の10年を記念して実施。女性を取り巻く課題の解決策を探るとともに、参加者相互の交流と情報のネットワーク化を図ることを目的とした国内最大級の女性会議である。

土浦市では平成4年から、毎年女性団体と市職員が参加している。数年前から市職員参加は中止。コロナ禍時には多くの会員がオンライン視聴。日本女性会議に気軽に参加でき、うれしいなどの感想もあった。



日本女性会議2012仙台  
Japan Women's Conference in SENDAI 2012



日本女性会議  
2006  
しものせき

日本女性会議2011松江  
語りつ・聴こう、"たんたん"の 縁を世界へ



#### 日本女性会議に参加して 男女共同参画室長 平本 容子

私が市職員として日本女性会議に参加したのは、2017年の苫小牧でした。「北の大地で語ろうこれからの未来の一步を」をテーマとして記念講演や、DV・災害・人権など11の分科会、内閣府男女共同参画局から男女共同参画についての報告などがあり、多くのことを学びました。中でも記念講演で俳優の渡辺えりさんが「演劇界は男社会であり、苦勞している女性がいること。夢をあきらめないでほしい」との話が強く印象に残っています。参加者との情報交換では施策へのヒントを得ることができ、大きな刺激を受けました。日本女性会議への参加は大変有意義なものであり、今後も女性団体の派遣が継続することを願っています。



＊ かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン大会



ゴール後の給水やバナナ配布を担当した。全国から参加した選手たちの挑戦する姿に感動を覚え、私たちも精一杯の声掛けをした。



＊ いきいき茨城ゆめ国体2019



＊ 女性に対する暴力をなくす運動

パープルリボンって？

パープル色をシンボルカラーにして、女性に対する暴力の根絶を訴え、被害者に対して一人じゃないことを伝え、励ます運動



オレンジリボンって？

児童虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広め、多くの方に関心を引きかける運動。オレンジは子どもたちの明るい未来を示す

国は毎年11月12日～25日までを女性に対する暴力をなくす運動期間、11月を児童虐待防止推進月間としている。土浦市はこれに合わせ、2017年より土浦市女性団体連絡協議会と連携し、ダブルリボンで飾ったツリーを市役所内2カ所と市内の公民館8カ所に設置。それぞれの取り組みについて市民に広く周知を図る。ツリーに飾るリボンは団体メンバーが1500個手作りした。

\*男女共同参画都市宣言式典（2012年）

土浦市男女共同参画都市宣言

豊かな自然と 生命はくぐむ湖 霞ヶ浦に恵まれ

深い歴史と 誇れる文化を培ってきた

私たちのまち 土浦

このまちに生きる私たちは

男女が互いに尊厳と人権を尊重し

世代をこえて一緒に

誰もが自らの意思で その人らしく幸せに暮らせる

「男女共同参画都市」をここに宣言します

平成24年11月18日



\*男女共同参画都市宣言10周年記念式典（2022年）



茨城県立土浦第一高等学校の華道部と  
茨城県立土浦第二高等学校の書道部によるパフォーマンス



## 男女共同参画センターフェスティバル

1997年女性センターがオープン。その後、男女共同参画センターと共催し、男女共同参画の啓発及び、開かれたセンターをめざし、毎年フェスティバルを実施している。2015年本庁舎に移転、2021年よりまちづくり市民会議と共催となる。

### 1998年10月 テーマ「女性センターオープン一周年記念事業」

1日目は、横浜市女性協会理事長有馬真喜子氏を講師に「今世界の女性と共に」のテーマで講演会を開催し、「男女共同参画社会の実現のための様々な課題を突破するために共に前進していこう」と、土浦市の女性たちに熱いエールを送ってくれた。

2日目「タイ国の日」を設け、タイ山岳民族民芸品のバザー、タイ国留学生の協力でのグリーンカレー試食、民族舞踊などを催し会場は大いに賑わった。

### 2003年10月 テーマ「土浦市女性団体連絡協議会のあゆみ ～土浦女性友好のつばさ10周年記念～」

女性のつばさ10年間の研修の成果をまとめ、女性団体のあゆみをパネル展示した。また、国立女性教育会館研究国際室長の中野洋恵氏を迎え「男女共同参画社会をめざし、私も動く、世界も動く」との基調講演も行われ、女性を取り巻く社会の諸問題や男女共同参画社会に関する理解を深めた。

### 2013年11月 テーマ「世代を超えてともに広げよう」

寸劇『「昔話・桃太郎現代考」に見る性的役割分担』（脚本：栗栖恵子氏）は、中川市長も参加、脇をつくば国際大学の学生が固め、桃太郎ならぬ桃子ちゃんひとひとが活躍した。また、「ハッスル中華まん」の提供は参加者に大人気だった。『「幸せの処方箋」～男と女の新しい暮らし方～』と題して茨城大学准教授 長谷川幸介氏の講演は、これからの男女の生き方への示唆に満ちて意義のあるものとなった。さらに東北被災地支援の売店も大盛況。行政・市民・老若一体の大きな輪になった。



### 2017年9月 テーマ「男女共同参画のまち土浦 ～ひととひと ともに支え合う日々～」

1部は、「歌って笑ってつなごう心の和」と題して、土浦出身のシンガーソングライター 美地さんの手振り、笑いを交えた歌は、参加者を惹きこんで「土浦小唄」の踊りの輪になった。

2部は、茨城大学非常勤講師の有賀絵理氏の「こころのバリアフリー」の講演。障がい者の立場から、2016年に成立した「障がい者差別解消法」を基に「障がい、差別、合理的配慮とは何か」について、人の心にあるバリアに気付いてほしいと話をした。本年度よりフェスティバル事業は、女性団体が企画から参加し、土浦市との協働がさらに進んだ。



## 自主活動 ～学ぼうシリーズ～

東日本大震災は日本の社会に大きな混乱と不安をもたらした。安心安全の暮らしは遠のき私達は何を為すべきか、私達は何が出来るのか、日々問いかけ続ける状況の中、女性団体から新たな動きが始まった。

日々の生活の中から様々な事案について学び検証し、行動へと安心安全の暮らしを構築していく。これらを目的として、環境・福祉はもとよりその時々に応じた課題をテーマに盛り込んで、年度ごとに学習を開始した。シリーズは2011年よりスタートし、コロナ禍でも実施し、10回目を迎えた。

### シリーズI 「放射能 ～土浦の現状と健康 生きるための食事の工夫～」

講師：つくば国際大学教授 高村登美子氏・土浦市放射能対策室室長 青木卓氏

震災による原子力発電の放射能の問題、情報が錯綜する中で問題を整理。青木室長から現状報告を、高村教授から放射能と食に関する安全な情報を学習した。



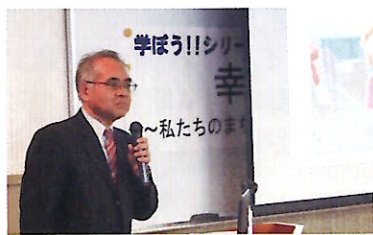
3.11 放射能汚染に対する不安をもって大勢の人が話に耳を傾けていた

### シリーズIV 「幸せの創り方 ～私たちのまちの介護制度を知ることから～」

講師：土浦市社会福祉協議会常務理事 瀬尾洋一氏

介護サービスについて、制度と利用の実際・課題については瀬尾常務理事から現状報告を、介護の現場からは会員の大川ちよのさん、山田陽子さんのお二人が実体験を報告した。

意見交換会の中で阿見町、美浦村の参加者から制度を利用した事で仕事と両立が出来たと貴重な報告もあり、介護に直面しての対応など、社会福祉協議会への理解を深める大きな機会となった。



### シリーズVI 「人と水 ～世界湖沼会議に向けて～」

講師：土浦市環境保全課課長 水田和広氏・技師 永峯弘規氏・土浦暮らしの会会長 眞山淑枝氏

つくば市で開催される第17回世界湖沼会議について水を巡る世界の現状と「命の水」霞ヶ浦について学び、水質を調べ、自分達の生活の中での水の大切な役割を再認識した。



シリーズⅦ 『地域社会と「男と女」～地域で幸せをつくるために～』

講師：茨城県生涯学習・社会教育研究会会長 長谷川 幸介氏

土浦市、牛久市、阿見町の3市町村交流会で各々活動報告があり、それらを受け長谷川幸介氏の講演を開催。地域の暮らしが大きく様変わりしている中で行政や住民がどう支えあうのか、それぞれの役割について話し合った。



シリーズⅧ 「土浦市の男女共同参画都市宣言から6年  
～あなたのまわりはどう変わりましたか～」

講師：つくば国際大学教授 横山 博子氏

都市宣言から6年、その後の変化を検証することを目的とし、当会研修部会が実施したジェンダーに関するアンケートを資料に加え、それらをもとに「若者とジェンダー」について、横山教授の講演と市の宣言後の取り組みの説明があった。講演では「夫は外、妻は家庭」の性的役割分担意識が若い世代でも増えているという説明を聞いた。「超えるべき壁」の高い現状を改めて知らされた。



シリーズⅨ 「DVと児童虐待を学ぼう」  
講師：土浦市こども未来部部长 加藤 史子氏

令和3年度、土浦市は「こども未来部」を新設した。このところ、メディアでは虐待の話題が多い。何故起こるのか、どう対応すべきか、加藤部長は、地域の見守り、声掛け、早期発見、切れ目のない支援の大切さを強調された。また、土浦市一般相談員の今高博子氏よりDVの特性などについての説明があった。



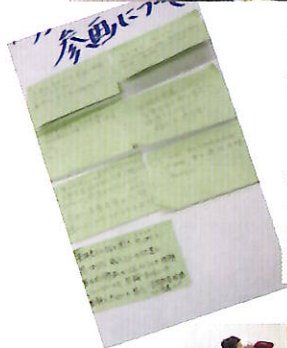
10回を重ね講師陣も充実、学習内容も多岐にわたり参加者も多く、このシリーズの意義は大きい。参加者から、講演がよく理解でき楽しかった。まずは、会の中から広めていきたい。自分を見つめ直す良い機会となった。今、自分は何ができるか等会員の中から学びの成果の手ごたえが感じられた。また、牛久市、かすみがうら市、阿見町、美浦村等近隣市町村の女性団体と男女共同参画社会の実現に向けてともに学び合い、交流、連携の行動は重要と考えている。  
(眞山 記)

## 総務部会

総務部会は、設立時は、会議担当と新聞担当でスタートした。会議担当は主に市政に関心を持つことに繋がる議会傍聴の受付、新聞担当は女性団体だより「つどい」の編集発行を担当していた。平成28年度に部会の組織再編があり、総務部会は市議会傍聴の調整受付が主な活動となり、市議会議員との意見交換会開催に結び付いた。4年にわたり実施した市議会議員を囲んでの意見交換会は有意義なものであった。その後、女性に対する暴力をなくす啓発活動を行っている。

### 主な活動例

- ◆平成 8年 市議会傍聴開始、調整受付を担当
- ◆平成 10年 女性団体だより「つどい」編集発行
- ◆平成 15年 市議会傍聴に関するアンケート調査実施
- ◆平成 28年 初当選した市議会議員5名との「土浦を創ろう・語ろう」意見交換会実施
- ◆平成 28年 「つどい23号」から、広報部会が編集発行を担当
- ◆平成 29年 市議会総務市民委員会議員との意見交換会
- ◆平成 30年 市議会産業建設委員会議員との意見交換会
- ◆令和 元年 市議会文教厚生委員会議員との意見交換会
- ◆令和 元年 女性に対する暴力をなくす運動（パープルリボン）期間に合わせてパープルリボンをツリーに飾る
- ◆令和 2年 DV根絶（パープルリボン）周知活動期間と児童虐待防止（オレンジリボン）月間を合わせ、オレンジリボンも加え2種類のリボンをツリーに飾る
- ◆令和 2年 リニューアルオープン クラフトシビックホール（旧土浦市民会館）見学
- ◆令和 3年 パープルリボン、オレンジリボンツリーの公民館設置に加え、“女性に対する暴力をなくそう”のメッセージカードを入れたティッシュを配布

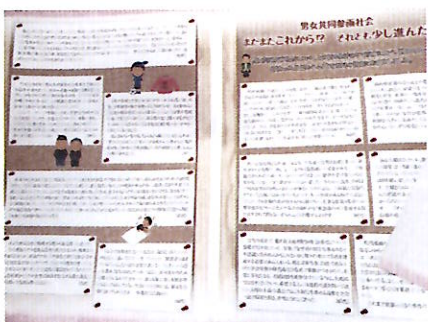


## 広報部会

広報部会は、2016年総務部会より独立してスタート。原稿依頼は会員のみでなくフェスティバル開催の折などで、会員以外の方にも声をかけて依頼することもある。これにより女性団体の活動を知ってもらえるように努めている。編集作業はパソコンで進めることも増えたが、顔を合わせての編集会議は意見を集約する貴重な場と捉えている。

30年間の「つどい」を読み返すと、寄稿された先輩の皆さんの前向きで真剣な生き方が伝わる。歴史を刻む情報誌としての役割も果たすことの意味を心にとめながら、本会の活動を分かりやすく丁寧に伝えることをモットーに編集作業に努めている。

発行年	主な内容（特集等）
平成 7年	「つちうら女性団体だより」として創刊 平成4年度事業「さわやか土浦女性のつどい」 日本女性会議に参加報告 土浦女性友好のつばさ'93 報告
平成 8年	広島平和記念式典参加 第4回世界女性会議in北京 NGOフォーラム報告
平成 9年	3部会からの報告記事の掲載開始
平成 10年	「タイ～土浦・ネットワーク」シンポジウム」報告
平成 11年	表紙と裏表紙がフルカラーに 女性センターフェスティバルオープン1周年記念
平成 12年	土浦市職員の男女平等に関する意識調査 「かすみがうらマラソン」の協力 特集・センターフェスティバル
平成 15年	23の女性団体代表者会議
平成 24年	第1回学ぼうシリーズ 「放射能～土浦の現状と健康に生きるための食事の工夫」
平成 29年	編集は総務部会新聞部から広報部会に変わる
平成 30年	霞ヶ浦湖上セミナー開催 紙面がフルカラーに
平成 31年	市議会議員との意見交換会
令和 3年	特集「男女共同参画 まだまだこれから!?それとも少し進んだ!?」
令和 4年	特集「わたしのエコ暮らし」



## 研修部会

発足当初は研修部会と調査研究部会が別であったが、平成28年の部会再編成に伴い研修部会として統一、現在に至っている。その時々女性の問題点を見つけ調査・研修を重ね学びに繋げている。

毎年実施されている日本女性会議報告は、参加した方々から感動、刺激を受けたなど熱のこもった報告がされている。審議会等、委員会報告も行政の動きを知る場となっている。

### 主な活動例

#### 調査研究部会

- 平成 9年 土浦市婦人団体連絡会に所属する25団体に活動状況のアンケートを実施
- 平成 10年 「男女平等に関する土浦市職員の意識・実態調査」を実施。土浦市に報告書を提出
- 平成 17年 「土浦女性友好のつばさ」の参加者にアンケートを実施
- 平成 18年 尼崎市と県内6市の女性行政に関する調査の中間報告
- 平成 19年 「土浦市を元気づけるために、あなたの率直な感じ方とアイデアをお寄せ下さい」と呼びかけ、まちづくりアンケートを実施、土浦市に提出
- 平成 23年 「大震災とまちづくり」の聞き取り調査をし、土浦市の放射線対策について学び、これが「学ぼうシリーズ」に繋がった
- 平成 25年 講話「中心市街地のまちづくり」について

#### 研修部会

- 平成 9年 パソコン教室実施
- 平成 18年 土浦駅周辺のバリアフリーを学ぼう
- 平成 23年 移動研修 講演会：上野 千鶴子氏 於：茨城県女性プラザ（レイクエコー）
- 平成 24年 移動研修 講演会：「断捨離のすすめ」川畑 のぶこ氏 於：レイクエコー
- 平成 26年 移動研修 講演会：白井 文（あや）氏（元尼崎市市長） 於：レイクエコー  
「新しいゴミ分別収集の方法について」土浦市環境衛生課係長 中島 朋子氏
- 平成 27年 ごみ処理場見学 ①関東リサイクルパーク（プラゴミ）  
②神立資源リサイクルパーク（生ごみ）
- 平成 28年 土浦市消防本部見学 講話：消防本部署長 宇都野 和司氏
- 平成 29年 新図書館「アルカス土浦」見学
- 平成 30年 男女共同参画社会都市宣言から6年  
「あなたのまわりは どう変わりましたか」市民アンケート実施 154名から回答を得る
- 令和 元年 講演「野菜の抗酸化性特性について」
  - ・豊田 哲郎氏（NPO免疫治療法懇談会理事）
  - ・山口 琢児氏（漢方医学）



平成27年 ゴミ処理場見学



## 土浦市女性団体連絡協議会創立30周年事業 ～ ともに語ろう土浦を！ ～

### 参加者（順不動・敬称略）

市長 安藤 真理子  
 副市長 片山 壮二  
 市議会議長 小坂 博  
 市議会副議長 塚原 圭二  
 市議会総務市民委員会  
 吉田 千鶴子 篠塚 昌毅  
 海老原 一郎 今野 貴子  
 島岡 宏明  
 女性団体連絡協議会会員



### 主催者挨拶 土浦市女性団体連絡協議会 会長 今高 博子

創立30周年記念として「ともに語ろう土浦を！」を開催しました。安藤市長の「市政に対する思い」を聞かせていただくことは非常に期待しております。また、当会は議会傍聴を30年間続けていますが、ジェンダーに関する議題などは非常に少ない。議員の皆様との率直な話し合いは当会の今後の展望と男女共同参画推進のためにも有効な手立てと考えました。市長並びに議長・議員の皆様のご協力に感謝申し上げます、大好きな土浦のために、明るく楽しく希望をもって活動していきたいと願っております。

### 講話 土浦市長 安藤 真理子氏

私は、東京で就職、結婚をして、妊娠を機に土浦に戻ってきました。専業主婦を経て、再就職をしようと思いましたが、小さい子どもがいるということで、思うように再就職はできませんでした。同じ思いを持った女性はたくさんいる、そして、そうした方が仕事をしやすい会社を作りたいと思い、介護関係の会社を起業しました。



仕事をする中で、仕事と家庭の両立には様々な課題があり、政治に訴えなければと思うようになりました。同じ頃、父の市議会議員引退があり、「声を届ける機会をもらった」と思い、市議会議員になろうと決めました。その後、県議会議員になり、少し離れた視点から土浦市を見た時に、元気がなくなっていることを残念に思いました。「土浦を何とかしなければ」と強く思うようになり、それが市長を目指すきっかけです。

昨年、土浦市男女共同参画都市宣言から10年が経ちました。これまで私自身、ハラスメントを受けた経験はありません。それは、女性団体などの先輩方が女性活躍の道を切り開いてくれたおかげです。

子育てでは、不登校に悩み、後に性の悩みを告白され、親として葛藤の日々でした。今は、LGBT などマイノリティの方も、その人らしく、ありのままに生活し、働いています。一方で、生きづらさを感じている方もいます。「幸せに生きたい」と思うことは皆さん同じです。ダイバーシティの実現は、そうした方にも目を向けることであると確信しています。

### 土浦市議会議長 小坂 博氏

土浦市女性団体連絡協議会30周年記念事業「ともに語ろう土浦を！」にお招きいただきありがとうございます。日頃より今高会長をはじめ、女性団体の皆様方には地域活動のリーダーとして、市政発展のため、るご尽力を賜り、感謝申し上げます。皆様の活動や各団体の報告また意見交換を通じて我々も皆様の「生の声」に接する絶好の機会と思っておりますのでどうか忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。今後とも一層のご協力をお願い申し上げます。

## 趣旨説明 眞山 淑枝氏

私たちの社会は格差、排除による生きづらさを感じ、コロナ禍により人々の心はバラバラになっているのが現状です。さまざまな世代が生き生きと活躍できる社会を次の世代にどう手渡すか高校生の意識調査を行いました。また、女性団体の30年の歴史の総括、3団体の活動報告を通して、男女がともに互いに助け合える関係を築いていくための思いを語る場を設けさせていただきました。

### 3団体よりの活動報告

- ・土浦市更生保護女性会 鈴木 君枝氏
- ・食生活改善推進員協議会 木野 英子氏
- ・うららフレンドハウス 篠 捷子氏



### 男女共同参画に関するアンケート調査（結果概要は土浦市のHPにて報告）

【調査対象】土浦市に通学する高校2年生 【期間】令和4年12月～令和5年1月 【回収数】1,539件

### 意見交換会（○ 議員発言 / □ 会員発言）

- 人の意見は皆違う。会って話すことはとても大事。市長は元気で覚悟がある。土浦を引っ張るリーダーだ。
- 高校生アンケートでは、将来土浦に住みたいが10%しかない。次の世代に向けてしっかりやっていかなければならない。
- 今回のアンケートで、答えたものの裏にあるものを探っていきたい。市長には敬意を持っている。多様性をどう認め進めていくかも大切。デートDVにも着目。「土浦市に住みたい」という答えからも学んでいきたい。
- 30年前はジェンダーや男女共同参画という言葉も一般的ではなかった。8年前の市議会には女性議員は2名、組織の中で20%を切ると声にならないとか。声が届くには30%が必要。女性議員を増やしたい。議会で、多様性について質問した。市役所の内部から変えていきたい。
- 1月の茨城新聞記事を見て、土浦市の女性管理職の少なさにびっくり！市長が女性職員と語り合っていることはいいことだ。アンケートを政策にも生かしてほしい。
- 女性議員を増やしたい。現在、ひとり親の児童が30%に近い。ガス代も払えない貧しいひとり親家庭に出会う。社会で活躍できる人が苦勞しているのを見るのはつらい。皆さんの力で支えて欲しい。
- 娘夫婦をみていると男女共同が進んでいると思う。世の中に役に立ちたい意識を持っている方も多い。土浦に住みたいという意識が低い。この数値を改善していきたい。
- 私の家は商売をしている。お客さんはみんな土浦ほど住みやすいところはないと言っている。
- このように議員さんの率直な声を聞き団体の展望が見えてくる。今後もこのような機会を設けたい。

### 講評 つくば国際大学教授 横山 博子氏



ボランティアや市民活動が継続するには、①キーパーソンと次のキーパーソンの同時育成②メンバー間の信頼関係の構築③根源的な問題が生じた際に分断しないで新しいステップに進めることの3つが備わっていることという研究結果がある。おそらく、土

浦市女性団体連絡協議会はこの3つを兼ね備えていたと推測される。

さてメンバーが高齢化していく中、今後、いかに活動を継続していくかが大きな課題であろう。他の地域でも、ボランティア活動団体数は増えているものの活動者は集まらないというのが共通した悩みである。この点に関しては、「個人化が進んだ社会では、ボランティアへのかかわり方も変わる」ことが指摘されている。つまり、「社会に恩返ししたい、困っている人を助けたい」といった目的で行う従来型(社会貢献型)活動から、「自分の興味関心がある、何らかの経験をしたい、その後のキャリアに役に立つことをしたい」という新しい型(自己充足型)活動への変化である。この新しい型のことをエピソードボランティア、単発的ボランティアと呼ぶ。若い方に多いと言われているが、新しい型をいかに取り込めるかが今後の活動継続には重要なポイントになるだろう。

## うららフレンドハウス

会長 篠 捷子

うららフレンドハウスは、1995年の第4回世界女性会議NGOフォーラムに参加したメンバー、及び活動の趣旨に賛同した女性で構成されています。

帰ってからも、次の2000年開催に向けて、継続的に勉強会を続けました。対外的に発信することが大事との考えから、平田洋子さんを会長に「うららフレンドハウス」を立ち上げ、男女共同参画社会の実現の為、特に女性の人権問題を中心にした講演会を毎年続け、当時副知事だった山口やちゑさんや内閣府男女共同参画推進課長定塚由美子さんなど、多方面の関係機関から講師をお願いしました。2006年（平成18年）には、茨城県ハーモニー功労賞団体の部を受賞しました。

栗栖恵子前会長の時には、大人相手の講演会だけではなく、小中学生に伝えていくことが必要ではないかということで、土浦市内やかすみがうら市の小中学校を訪問し、出前教室を開催させて頂きました。男女共同参画の寸劇を見た後で、生徒達には思ったことや感じたことを付箋に書き、その中から選んだものを、グループ毎に発表をしてもらいました。

アンケートに、男女共同参画社会という言葉は初めて聞いたが、一人一人の思いや考え方を大事にする事、みんな違って良いのだと分かりましたと、感想が届きました。中には、お身体を大事に頑張ってくださいと、おばさんたちをねぎらう言葉も書いてあり、温かい気持ちに逆に励まされました。

今は、コロナ禍が続いているので、人集めや出前教室も出来ないために、自主事業として会員の講話や社会問題を取り上げて、楽しく学びあっている。



なごみ

## 和の会（婦人セミナー）

会長 岡元 孝子

1985年に国際婦人の10年最終年を記念して企画された「女性のためのセミナー」に参加した受講生が講座修了後に自発的に集まって、「私の今の生活はこれで良いのか?」という疑問に自分自身で解決出来るよう「女性の生き方」を考える勉強会「婦人セミナー」として発足した。会員の前向きな生き方を求めて公開講座を開催し、意識開発になればと会員以外の皆様にも呼びかけ多くの方々に参加を得る等活発に活動していた。

発足し20年余りが経過した頃、社会情勢の変化と共に会の名称を変更したら・・・との案に「和（なごみ）の会」となりました。「和」とは、穏やか、お互い気が合う、争わない、二つ以上の数を加えて得た結果等々の意味を持ちます。これからも皆で意見を出し合い話し合い、他団体と協力し、地域社会に少しでも貢献し、女性としての教養を高めたいと思います。現在は会員の高齢化又コロナ禍により活動は縮小。情報を伝達・共有し、参加出来る会員が行事などに協力しています。（出来ることを出来る範囲で!）

会員同士、健康に気を付けて和を大切に生涯現役モットーに楽しく学び続けたいと思います。

### 土浦暮らしの会

会長 眞山 淑枝

1974年、霞ヶ浦の水質悪化に安全な水・食をテーマに設立。当初会員数も多く行政とも連携し啓発活動など活発に行っていたが、10年前頃から会員も高齢化し若年の会員拡大も困難になってきたことで方向転換を図る。会員構成は消費コンサルタント・教員・相談員からなり実働10名を核に各人がリーダーとして、研究者・他団体との連携のもと研究会等で啓発・実践活動を実施。第6回（1995年）・第17回（2018年）世界湖沼会議に参加、各国の研究者達が霞ヶ浦の現状確認の場となり、今後の水質浄化活動に大きな力となった。

事務局 原田 一光

土浦暮らしの会は、生活者の立場から霞ヶ浦の水質浄化促進を目指して、活動としては、生活排水対策を日常生活の中で取り組む様々な方法を、イベントや出前講座などで発信するなどしてきました。

具体的には、土浦市消費生活展、土浦市環境展、茨城県環境科学センターのイベントなど様々な催事に参加し、親子で学ぶ生活排水対策とともに、女性団体対象の霞ヶ浦湖上スクールにも取り組んできました。特に、10年以上前に土浦市の協力を得て作成した手書きイラストの生活排水対策パネルやチラシは、大変好評で今も利用されています。また、ゴミ問題や食料問題など、身近な生活に関わる事案にも取り組み、生活の中からの改善を目指しています。

健康に留意しながら、地道な活動が継続できればと願うこの頃です。

「霞ヶ浦を守る活動はいつやればいいのか？ 今でしょ！」



### 新治婦人会

会長 滝田 国子

新治婦人会は「活動や学習は最高のコミュニケーションの場 この輪を大きく広げよう」をモットーに、更り豊かな郷土を生かし、会員たちが互いに親しみ合いながら活動をしています。

活動の大きな一つとして、地元で取れた常陸秋そばのそば殻だけを使った枕づくりがあります。家庭で不用になった布を利用して筒形に縫い、虫が発生しないように手作業したそば殻を詰めて枕にし、婦人会のメッセージを添えてパッケージしたものを地域のまつり等で販売し、売り上げを社会福祉協議会へ寄付していました。新型コロナウイルスの感染症の影響により活動が縮小されていましたが、ウィズコロナの時代に適した活動を再開していきたいと思っています。

### 土浦市地域女性団体連絡協議会

代表 原井 みつ江

昭和22年、土浦市地域婦人団体連絡協議会は、地域組織の連携と行動で女性の自立と社会参加を図り、明るい家庭、住みよい地域社会を推進することを目的に設立いたしました。霞ヶ浦観光の玄関口であるまちの婦人会として「おもてなし」の心を持ち続け、会員の活動に反映されています。

私たちが設立当初から継続しているものとして、現「かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソン大会」のボランティア活動があります。日赤ブースにおいて募金活動や、参加者への豚汁やフルーツポンチの提供を行い、参加者をねぎらい交流を図っています。かすみがうらマラソン大会前日には、コース周辺の清掃をしており、影からも大会を支えています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により現在は活動を控えている状況ですが、交通安全の見守りやあいさつ運動を行っていました。

これからの時代をより良く住みやすい地域となるために、会員が意見を出し合い、楽しみながら活動をしていきたいと思っています。



かすみがうらマラソンで、豚汁の提供

### 土浦商工会議所女性会

会長 矢口 恵子

土浦商工会議所女性会は、昭和50年（1975年）に設立し、平成27年（2015年）に創立40周年を迎えました。私たちは、春の「土浦の雛まつり」、夏の「土浦キララまつり」、秋の「土浦カレーフェスティバル」など、様々な地域振興活動に参加しています。

また、土浦市などが運営する各種委員会に参加し、土浦市をさらに良くするための提言活動も行っています。対外的には全国大会をはじめ、関東大会、県大会などに積極的に参加し、各地の女性会メンバーとの交流を図り親睦を深めています。

さらに、女性会活動の柱である「研修」「親睦」「PR」の3委員会や「例会」などを活発に実施し、組織の拡充・強化と会員同士のコミュニケーションを図っています。

当女性会は、令和7年（2025年）に創立50周年を迎えます。次の50周年に向けて“一緒に学び、一緒に考え、一緒に活動しましょう！”を合言葉に地域経済を元気にする源泉として、まず私たち女性が元気を出して活動していきたいと思えます。



### 土浦市更生保護女性会

会長 鈴木 君枝

戦後の混乱した中、家族や家を失い、貧しさのため非行を繰り返す少年達の姿に女性たちは「ほっとけない」と行動したことが更生保護女性会の活動の原点であり、全国組織のボランティア団体です。昭和34年に発会したが諸事情により休会、昭和49年度に県連盟に加入活動を開始。令和5年度には50周年の節目を迎えます。現在78名の会員が中学校区ごとに犯罪や非行のない明るい地域づくりの為に、地域の人々に寄り添い活動を進めています。家庭や非行の問題を考えるミニ集会是更女活動の柱でしたが、核家族化、近隣地域の間人関係の希薄化、少子化に伴う社会状況の変化は子育て環境を変え、子育てに不安な親たちも多いことから子育て支援事業を進めています。平成10年「お母さんの談話室」が基となり、平成16年から土浦市の委託事業を受けることになり、子育て交流サロン「わらべ」と「のぞみ」を運営しております。サロンの事業は親子の安らぎの居場所となっています。

平成22年度から「土浦市青少年を考える会」を保護司会、関係団体と連携して立ち上げ定例集会も90回を迎えます。また、地域との連携協働活動で4年前から子ども食堂を地域の人達と一緒に参画して行っています。今後地域の人達の居場所づくりに発展していけるよう活動を続けていきます。



### 土浦市食生活改善推進員協議会

会長 小嶋 理恵子

土浦市食生活改善推進員は昭和57年に24名の受講生から始まり、翌年活動をキッチンカーにてスタートしました。テーマは今でも実行している「みそ汁塩分濃度測定」より開始しました。平成18年には会員数254名にもおよびました。その間広報つちうらへの掲載を開始、ハッスル中華まんの販売及び教室開催、男性会員の加入などがあり、その後会員数は減少、現在は119名で活動しています。土浦市を8地区に分け、各々①中央研修からの普及事業②運動推進員とのタイアップ③支部独自の普及事業を実施しており、それぞれの支部で独自のメニューを提案しています。

我々食改は望ましい食生活の実践、啓発、普及活動が重要です。地域に密着した住民参加型の組織として土浦市の業務委託を受けています。「私たちの健康は私たちの手で!!」をスローガンのもとに自らの食生活を改善し、疾病予防、健康づくりを目的に活動しております。



### JA水郷つくば女性部のあゆみ

部長 大川 ちよの

JA水郷つくば女性部は、平成9年にJA土浦女性部として発足してから、霞ヶ浦地区・旧新治地区・千代田地区の女性部員が合流して1,381名の部員で活動を始めました。

活動内容は、支部ごとに料理教室・健康教室・フラワー教室等を開催して、部員の交流を深めてきました。また、女性部全体としては年一回部員が、一堂に集い大運動会を開催し、一人一人の健康保持と交流を深めています。

平成24年に20名による加工部会を立ち上げ、地産地消を目的として「みそ造り」をはじめました。亀城味噌と命名したみそは、土浦市のブランド商品に認定され、JAの五ヶ所の直売所で販売しています。多くの消費者の方から、安心安全でおいしいみそと評価をいただき、今では、製造が間に合わないくらいです。

また、平成31年に土浦、竜ヶ崎、茨城かすみの3JAが合併して、JA水郷つくばとなり、地域の発展に寄与する大きな組織となりました。それに、準じて女性部も3つの女性部が合併してJA水郷つくば女性部となり、678名の女性部員の組織となりました。女性部員がお互いの意見を出し合い、女性の地位向上に寄与できる組織に生まれかわりました。

今後は、女性も政治・福祉を人任せとせず「自分達のことは、自分達で考える」をモットーに自己研鑽できる組織でありたいと考えています。



### ちえ 治枝の会

代表 栗栖 恵子

「美地 平和を語り継ぐコンサート」が2019年8月県南生涯学習センターで開催され、来日中だったベトナム人のドク氏が特別出演した。私は平和の語り部として参加した。その時実行委員の一人が音頭をとって有志で折り紙を折り、会場を盛り上げてくれた。

この事が契機になり、2020年に「治枝の会」設立。男女共同参画センターのロビーで私たちは月に一回集って、折り紙を学び始めた。「たかが折り紙、されど折り紙」人々の交流が生まれる。「親善大使」になった気持ちだ。人々との交流が生まれる、異国の、障がいのある人、支援を必要としている人など、みんな一緒に生きている社会だ。



### 博 和 会

会長 河田 輝子

博和会は、平成28年5月末に福祉関係や介護に関心のある仲間で立ち上げました。キララ祭りでハッピーの背に「和」という文字を縫い付け踊っていたこともあったので、広く知識を求め和やかに、住み慣れた地域で暮らし続けたいという方向性を示しました。会では、交流の輪（和）を通し、健康的なふれあいから絆を深め、互いに支え合うことを下記の規約に掲げ、目的達成のためにそれぞれの自主性を尊重しています。

- (1) 居心地の良い自由な空間を互いに提言する
- (2) 地域でのボランティア活動は、積極的に参加する
- (3) 生涯学習を提唱し、その機会を提供する
- (4) 福祉や介護に対する課題を相互に考え、解決策を実践する
- (5) 報告・連絡・相談を強化して相互の共通認識を図る

翌年、女性団体に加入しセンターフェスティバルや研修会、講演会、日本女性会議への参加を通し、常に学ぶ姿勢に大変感化させられました。その経験は、会の中の共通話題として認識し合い大変役立っています。今後も皆さまと共に学び、それぞれの住まいで安心・安全な暮らしを継続していきます。



### 六 好 会

～笑顔と居場所とお弁当～

会長 今高 博子

1986年に六中地区公民館で「身近な高齢福祉講座」を開催し、受講修了生51名でスタート。今年で36年目を迎えます。

**「宅配弁当サービス」**→月1回1食200円 独居の方、高齢者世帯、さまざまな事情を抱えたご家族へ

**「いきいきサロンいこい」**→毎週1回参加費100円 地域の人たちの居場所づくり

地域で何が出来るか、食事サービスもいきいきサロンも手探りの中、土浦市で初めて実施しました。時代のニーズを自主的に捉え、いつまでも自分の家で楽しく、私たちの作ったお弁当でホッとしていただけたら・・・みんなで何でも話せる楽しい居場所も欲しい・・・と話し合い活動しています。会員もいきいきと笑顔が輝いています。＼(^o^)/

最近、出会う地域の困り事は、多様で複雑な問題で「公的サービスの隙間埋め」のような活動も、私達の役目かと思うようになりました。



いきいきサロン「いこい」





### つぶやき

博和会 井倉 洋子

コロナ禍のマスク着用が続き、お互いの表情も読み取れない状況が続きました。家の前を通る小学生が出会えば、元気な声で挨拶を交わしてくれた光景を懐かしく思っていました。ある朝、小学生に挨拶をされ、元気な声を聞いて、とても清々しい一日を過ごしました。

少子化傾向で一年生から六年生の登校班の編成も少人数です。核家族が増え出産や育児に関し、相談や手伝ってくれる家族が近くにおらず悩む母親が増えていると聞き及びました。次世代育成支援対策等が進められておりますが、やはり、身近で力になる存在が大切かと思われまます。コミュニケーションのはかり難い環境ではありますが、近所の妊娠中や育児中のお母さん方の話し相手として存在できればと願っています。

### ワークショップを開催して

土浦市食生活改善推進員協議会 三谷 富子

2011年の東日本大震災の後、女性団体は「その時貴女はどうしたか？」と言うあの日の体験を振り返るワークショップを企画致しました。当時副会長だった私が責任者を努め大変緊張しました。100名以上の出席者があり、率直な意見を市長、総務部長等に届け、一般市民の様子、考え方等、はっきり目に見える形で報告し、ワークショップは大ヒットでした。又食改は地震の翌日おにぎりの炊き出しをしましたが、減塩を目標にしていたので、おにぎりが味なしとの指摘は苦い思い出です。その後美味しく温かい非常食の研究に取り組み、現在も続けています。そしてどんな時でも何にも勝るのは、人々の繋がりとしみじみ感じています。

### 日本女性会議に参加して

六好会 渡辺 久子

全国の女性達が一堂にとっても過言ではない「日本女性会議」に参加したのが「2015 倉敷」でした。周りの女性たちがみんな輝いて見え、不安な気持ちを隠しながら話し合いの場に入っていたことが懐かしく思い出されます。現地への参加は格別のものがあり、会場の熱気、地元や全国からの参加者の共感あう生き生きとした面差しはその地に立った者だけに感じられる高揚感でしょうか。

そして今、講演や第7分科会（現場で考える貧困家庭への支援）で学んだことが地域活動への参加につながっていると思います。

### 土浦女性団体連絡協議会との出会い

JA水郷つくば女性部 吉田 照美

平成13年、区長に勧められ安易な気持ちで「女性模擬議会」に参加。ところが、参加者の中に専門用語や質問、市政の事を熱く語る方々が居り大きな衝撃を受けました。2年後、偶然JA女性部長より「土・女・連に代表で出て欲しい」と言われ、出席してビックリ!!です。女性模擬議会で出会った方々がいらっしたのです。

土・女・連と出会い、組織・活動内容を理解するまで数年。徐々に代表として出席させて頂く機会も増え、特に、日本女性会議・茨城女性フォーラム・市の審議委員会では多くの学びや、やる気を気づかせてくれた尊いものとなりました。どの場に臨む時も“問題意識を持って言葉を発する”事を心掛けて来た事で、いくつかの要望が実現され嬉しく思います。私が代表として意を決する時、必ず声をかけ背中を押して下さった方々が居りました。

これまで、30年の歴史を重ねた土・女・連、多くの先輩の並々ならぬ努力があってこそこの事と思います。私も長い間、身を置かせて頂いている者として、次世代に繋いでいく責任を感じています。

### 女性活動を振り返って～場と言葉の力～

土浦暮らしの会 山根 幸美

「土浦女性友好のつばさ'96」に土浦暮らしの会から参加したことが活動の始まりでした。タイ国のピサヌローク・スコータイ・バンコクを訪れ、施設視察・女性リーダーと交流・遺跡見学など研修の時を共有しました。

2001年、土浦市女性模擬議会に参加。自然環境の保全に関わる再質問までしました。

2004年、広島平和使節団に女性団体より参加。

2005年「日本女性会議ふくい」に参加して刺激を受けました。

研修部会では、土浦駅周辺のバリアフリー体験調査。調査研究部会では、2011年東日本大震災後の対応を放射線対策室の青木室長に状況説明をお願いしました。

また団体から中心市街地活性化協議会委員として推薦され活動しました。

これらは、女性団体の場があつての活動です。「場」を大切に「言葉の力」を地元活動の中で覚えるこの頃です。

### 笠間焼の花瓶を前にして

土浦暮らしの会 中江 元子

昭和49年度消費者モニターの通信教育と水戸での講座受講完了者に市の呼びかけがあり、消費者団体が生まれ、その一つが土浦暮らしの会として発足した。土浦も消費生活センターが活動をはじめた。私自身も消費生活コンサルタントの資格をとり、土浦暮らしの会との関わりも強くなっていった。まだまだ消費者に不利な契約は色々ある。30年前から続いているオレオレ詐欺と巧妙な手口、どうしてと……。あの当時暮らしの会では霞ヶ浦の水質浄化にも取り組み、また特産のレンコンの漂白を声をあげて止める事ができました。何が大事で何を守るか。日々の生活にかかっていることを胸に生きていこうと思う。

### 総務部活動に参加して

土浦市更生保護女性会 田村 尚子

総務部の一員として種々活動に参加させて頂きました。

市議会傍聴の調整、市民会館改装に伴う見学会、出前講座により食生活について学んだり、各公民館に設置して頂いたパープルリボンのクリスマスツリー作成等部員同士楽しい作業もありました。いろいろなイベントがあつたなかでも一番記憶に残るのは、2年にわたり行った市議会議員を囲んでの話し合いです。

議員一人一人のテーマ等を発表して頂いたあと、議員と参加者5人程のグループに分かれて、市や各地区の抱える問題を話し合いました。議員さんを身近に感じる事が出来た、有意義な時間でした。

日本女性会議に参加させて頂くなど、約10年に亘り関わる事が出来、大変勉強になりました。ありがとうございました。

### 生きがい求めて

治枝の会 田中 治江

「治枝の会」が出来て3年になります。折り紙という古来よりの伝承を大切にしつつも、新しいものに挑戦するなど暗中模索の中で作品を作ってきました。会員同士の制作、観賞だけでなく、地域社会へ目を向けて、人々の慰め喜びになればとの思いで土浦市在住のベトナムの方々へ、児童施設2か所へ、遊ぶ・飾る・箱等の作品を贈りました。昨年は広島へ広告紙を使って「千羽の鶴」を今高会長のメッセージを添えて贈ることが出来ました。ウクライナ戦火から逃れてきた日本に住んでいる子供たちへ、大使館を通して「二十羽鶴」を贈りました。

# 土浦市女性団体連絡協議会

## 目的

土浦市女性団体連絡協議会は、市内の各種団体等が相互の連携を図り、地域社会の向上発展に寄与するため、学習を重ねて土浦市と協働し、男女共同参画社会を推進していくことを目的とします

### 〔自主事業〕

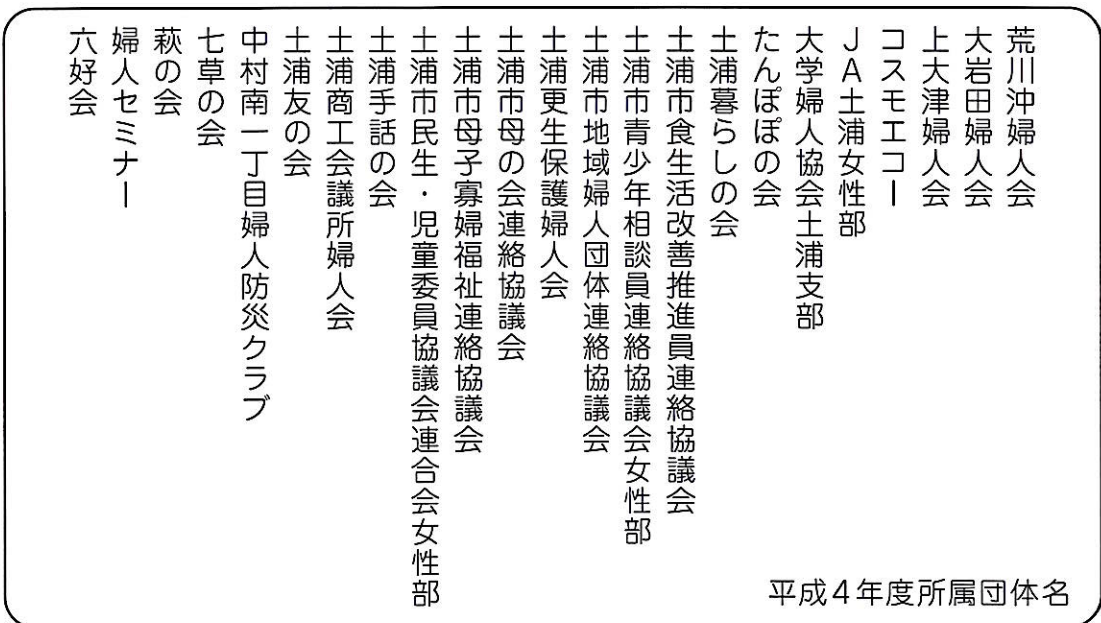
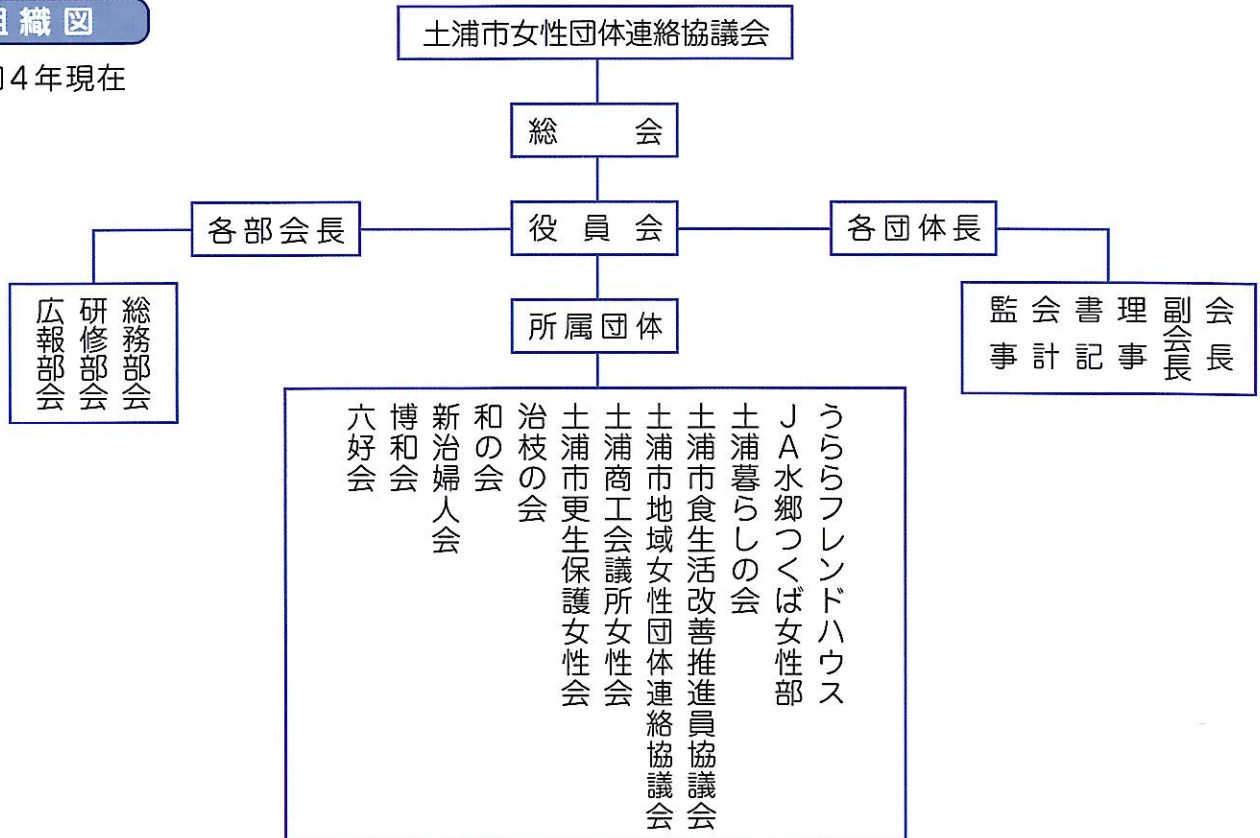
- ・男女共同参画に関わる自主研修を実施
- ・土浦女性団体だより「つどい」発行
- ・土浦市議会傍聴（年4回）
- ・土浦市市議会議員との意見交換会など

### 〔参加・協力〕

- ☆ 土浦市の審議会・委員会等、茨城県の委員会等に参画
- ☆ 土浦市・茨城県等の各種行事に参加・協力1992(平成4)年度～
- ☆ 日本女性会議へ参加 1992(平成4)年度～
- ☆ 広島平和記念式典参加 1992(平成4)年度～

## 組織図

令和4年現在



平成4年度所属団体名

土浦市女性団体連絡協議会 会長・副会長名簿

年度 / 役職	会長	副会長	副会長
平成 4年～ 5年	田中きみ	岩本喜美子	
平成 6年～ 7年	田中きみ	岩本喜美子	
平成 8年～ 9年	田中きみ	菅庭キヨ	
平成10年～ 11年	田中きみ	菅庭キヨ	
平成12年	田中きみ	菅庭キヨ	
平成13年	田中きみ	井坂たけ	
平成14年～ 15年	井坂たけ	眞山淑枝	平田洋子
平成16年～ 17年	井坂たけ	眞山淑枝	江橋満喜子
平成18年～ 19年	井坂たけ	眞山淑枝	江橋満喜子
平成20年～ 21年	眞山淑枝	箱根みさ	三谷富子
平成22年～ 23年	眞山淑枝	箱根みさ	三谷富子
平成24年～ 25年	眞山淑枝	栗栖恵子	今高博子
平成26年～ 27年	眞山淑枝	栗栖恵子	今高博子
平成28年～ 29年	今高博子	服部喜代子	篠捷子
平成30年～令和元年	今高博子	篠捷子	鈴木君枝
令和 2年～ 3年	今高博子	篠捷子	鈴木君枝
令和 4年～ 5年	今高博子	篠捷子	鈴木君枝

土浦市女性団体連絡協議会団体名一覧

No.	名 称	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	
1	荒川沖婦人会																																
2	大岩田婦人会																																
3	土浦暮らしの会																																
4	コスモエコー																																
5	土浦市更生保護女性会																																
6	土浦市食生活改善推進員連絡協議会																																
7	土浦手話の会																																
8	土浦市青少年相談員連絡協議会女性部																																
9	たんぽぽの会																																
10	土浦市地域女性団体連絡協議会																																
11	土浦友の会																																
12	七草の会																																
13	土浦市母の会連絡協議会																																
14	和の会（婦人セミナー）																																
15	土浦市母子寡婦福祉連絡協議会																																
16	土浦市民生（児童）委員協議会連合会女性部																																
17	JA水郷つくば女性部																																
18	上大津婦人会																																
19	土浦商工会議所女性（婦人）会																																
20	中村南一丁目婦人防火クラブ																																
21	六好会																																
22	萩の会																																
23	大学女性協会土浦支部																																
24	中村地区婦人部																																
25	土浦消費者（リーダー）友の会																																
26	TMオルカ（市P連母親委員OG会）																																
27	うららフレンドハウス																																
28	新治婦人会																																
29	博和会																																
30	治枝の会																																

\*団体名は、所属時、又は令和4年4月現在の名称とする

## 土浦市女性団体連絡協議会三部会名簿（平成11年度）

【総務部会】		【調査研究部会】		【研修部会】	
No.	団体名	No.	団体名	No.	団体名
1	荒川沖婦人会	1	土浦市更生保護婦人会	1	コスモエコー
2	大岩田婦人会	2	土浦市食生活改善推進員連絡協議会	2	たんぽぽの会
3	土浦暮らしの会	3	土浦市青少年相談員連絡協議会女性部	3	七草の会
4	土浦市地域婦人団体連絡協議会	4	土浦市母子寡婦福祉連絡協議会	4	婦人セミナー
5	土浦市母の会連絡協議会	5	土浦市民生（児童）委員協議会連合会女性部会	5	上大津婦人会
6	土浦友の会	6	六好会	6	土浦商工会議所婦人会
7	JA土浦女性部	7	大学婦人協会土浦支部	7	うららフレンドハウス
8	土浦消費者友の会	8	土浦市小・中学校PTA連絡協議会母親委員OG会		

## 土浦市女性団体連絡協議会三部会名簿（令和4年～5年度）

【総務部会】		【広報部会】		【研修部会】	
No.	団体名	No.	団体名	No.	団体名
1	土浦市更生保護女性会	1	土浦暮らしの会	1	土浦市食生活改善推進員協議会
2	和の会	2	土浦市地域女性団体連絡協議会	2	うららフレンドハウス
3	土浦商工会議所女性会	3	六好会	3	JA水郷つくば女性部
4	治枝の会	4	博和会	4	新治婦人会

## 日本女性会議開催地一覧

開催年	開催地	開催年	開催地	開催年	開催地
1992(平成4)年	長野市	2004(平成16)年	松山市	2016(平成28)年	秋田市
1993(平成5)年	福岡市	2005(平成17)年	福井市	2017(平成29)年	苫小牧市
1994(平成6)年	和歌山市	2006(平成18)年	下関市	2018(平成30)年	金沢市 <small>世界湖沼会議で不参加</small>
1995(平成7)年	新潟市	2007(平成19)年	広島市	2019(令和元年)	佐野市 <small>水災害で中止</small>
1996(平成8)年	宇都宮市	2008(平成20)年	富山市	2020(令和2)年	刈谷市 <small>オンライン参加</small>
1997(平成9)年	岡山市	2009(平成21)年	堺市	2021(令和3)年	甲府市 <small>オンライン参加</small>
1998(平成10)年	尼崎市	2010(平成22)年	京都市	2022(令和4)年	倉吉市
1999(平成11)年	浜松市	2011(平成23)年	松江市	2023(令和5)年	開催なし
2000(平成12)年	津市	2012(平成24)年	仙台市	2024(令和6)年	開催なし
2001(平成13)年	水戸市	2013(平成25)年	阿南市	2025(令和7)年	橿原市 開催予定
2002(平成14)年	青森市	2014(平成26)年	札幌市		
2003(平成15)年	大津市	2015(平成27)年	倉敷市		

# 資料

## 男女共同参画の動き

P1

年度(西暦)	土浦市女性団体連絡協議会の動き	土浦市の動き	日本の動き	世界の動き
平成3年度 (1991)		・女性問題に関する 市民意識調査 ・「教育委員会女性青少年課 女性行政係」設立		
平成4年度 (1992)	・土浦市婦人団体連絡会設立(23団体) ・女(ひと)と男(ひと)ふれあい 土浦まちづくり事業主催 ・さわやか土浦女性のつとめ	・広島平和記念式典への参加開始 ・日本女性会議への派遣開始	・育児・介護休業法 施行 ・初の婦人問題 担当大臣誕生	
平成5年度 (1993)	・第1回土浦女性友好のつばさ'93 (タイ・シンガポール)	・機構改革により 「企画部企画課女性行政室」へ ・「つちうら女性プラン21」策定	・初の女性衆議院 議長就任	・世界人権会議 「ウィーン宣言 及び行動計画」
平成6年度 (1994)	・土浦女性友好のつばさ'94(タイ) ・土浦女性団体だより「つとめ」創刊	・広報誌「ウイズユー」創刊	・総理府男女共同 参画室発足	
平成7年度 (1995)	・土浦友好のつばさ'95(中国) -第4回世界女性会議 in 北京- ・第1回茨城県男と女・ハーモニー 功労賞受賞	・土浦市市政施行55周年記念式典 第4回世界女性会議 in 北京 -NGO フォーラムワークショップに参加-	・育児介護休業法 施行	・第4回世界女性 会議「北京」 (北京宣言)
平成8年度 (1996)	・土浦女性友好のつばさ'96(タイ)	・機構改革により 「市長公室女性行政課」を新設	・男女共同参画 2000年プラン策定	・第5回女子差別 撤廃委員会 (ニューヨーク)
平成9年度 (1997)	・タイ～土浦・ネットワークシンポジウム開催	・機構改革により「女性行政課」から 「女性センター」に改称 ・「土浦市女性センター」開設 (ウララ2総合福祉会館7階) ・土浦市女性センターオープン記念講演 ・女性のための無料相談開始 (DV相談含む)	・男女雇用機会 均等法改正	・第16回女子差別 撤廃委員会 (ニューヨーク) ・第41回婦人の 地位委員会 (ニューヨーク)
平成10年度 (1998)	・「土浦市女性団体連絡協議会」に (婦人から女性に)名称変更 ・土浦女性友好のつばさ'98(北欧)	・つちうら女性プラン21後期計画策定 ・外国人のための日本語教室開始 ・女性センターフェスティバル (オープン1周年記念事業) 「いま、世界の女性とともに」		
平成11年度 (1999)	・土浦女性友好のつばさ'99(北欧) ・男女平等に関する土浦市職員の意識・ 実態調査	・女性センターフェスティバル 『東北タイのオペラ 「モーラム」と女性』	・男女共同参画 社会基本法施行	
平成12年度 (2000)	・土浦女性友好のつばさ2000(米国) -国連特別総会「女性2000年会議」 NGO フォーラム参加-	・男女共同参画社会に関する 市民意識調査 ・女性センターフェスティバル	・男女共同参画 基本計画策定 ・ストーカー行為等の 規制等に関する 法律施行	・国連特別総会 「女性2000会議」 (ニューヨーク)
平成13年度 (2001)	・初の女性模擬議会開催参加	・第2次つちうら女性プラン21策定 ・女性センターフェスティバル 「癒やしは心の栄養剤(こやし)」	・配偶者からの暴力 の防止及び被害者 の保護に関する 法律施行 ・内閣府男女共同 参画局設置	
平成14年度 (2002)	・土浦女性友好のつばさ2002(韓国) …事業終了	・女性センターフェスティバル「和」		
平成15年度 (2003)	・土浦女性友好のつばさ10周年記念 ・女性団体のパネル展示	・女性センターフェスティバル 「男女共同参画社会をめざして ～私も動く 世界も動く～」		
平成16年度 (2004)	・女性議員との意見交換会 ・所属団体の活動状況のアンケート調査 実施	・女性センターフェスティバル 「～自分らしくいきいきと～」		

年度(西暦)	土浦市女性団体連絡協議会の動き	土浦市の動き	日本の動き	世界の動き
平成17年度 (2005)	・土浦女性友好のつばさ参加者へのアンケート調査実施	・男女共同参画社会に関する市民意識調査 ・第2次つちうら女性プラン 21 後期計画策定 ・機構改革により「女性センター」を「男女共同参画課」に改称(=「男女共同参画センター」に改称) ・男女共同参画センターフェスティバル「もっとチャレンジ」	・育児・介護休業法改正 ・男女共同参画基本計画(第2次)	・国連「北京+10」閣僚級会合(ニューヨーク)
平成18年度 (2006)	・土浦市女性団体連絡協議会の組織見直し ・尼崎市と県内6市の女性行政、審議会・委員会等への参画状況調査実施	・男女共同参画センターフェスティバル「いきいきと暮らす」	・男女雇用機会均等法改正	
平成19年度 (2007)	・土浦市の審議会・委員会への女性の参画状況調査実施	・男女共同参画センターフェスティバル「明るく元気で輝いて生きる」		
平成20年度 (2008)	・レジ袋の削減を進める市民会議に協力 ・加盟団体への活動状況のアンケート調査実施	・男女共同参画センターフェスティバル「輝く未来(あした)へ～地球と私のスリム計画～」		
平成21年度 (2009)	・まちづくりへのアンケート調査実施	・男女共同参画社会に関する市民意識調査 ・男女共同参画センターフェスティバル「心も体も軽快にファイト！」		
平成22年度 (2010)	・土浦協同病院移転反対署名活動実施 ・まちづくり女性懇談会を開催	・「第3次土浦市男女共同参画推進計画」策定 ・男女共同参画センターフェスティバル「真に豊かな暮らしを！そして美しく!!」		・国連「北京+15」記念会合(ニューヨーク)
平成23年度 (2011)	・「東日本大震災時の土浦市の現状について」ワークショップ開催 要望書、報告書を市に提出 ・自主事業「学ぼうシリーズ」をスタート 「放射能～土浦の現状を健康に生きるための食事の工夫～」	・男女共同参画センターフェスティバル「『意識』から『行動』へ～ともに創ろう男女共同参画社会～」		・UN Women 正式発足
平成24年度 (2012)	・土浦市男女共同参画都市宣言記念式典に協力参加 ・自主事業「学ぼうシリーズII」 「男女共同参画社会に向けて事例から学ぼう～各市町村の取り組みから～」	・土浦市男女共同参画推進条例施行 ・「土浦市男女共同参画都市宣言」記念式典実施		・第56回国連婦人の地位委員会「自然災害におけるジェンダー平等と女性のエンパワーメント」
平成25年度 (2013)	・自主事業「学ぼうシリーズIII」 「このまちに生きる私たち～土浦市の課題と取り組みは～」	・男女共同参画センターフェスティバル「男女共同参画社会へ～世代をこえてともに広げよう～」	・「日本再興戦略」閣議決定(女性の活躍を中核に位置づけ) ・配偶者からの暴力の防止および被害者の保護に関する法律改正(DV法改正)	
平成26年度 (2014)	・自主事業「学ぼうシリーズIV」 「幸せの創り方」～私たちのまちの介護の制度を知ることから～	・男女共同参画社会に関する市民意識調査 ・男女共同参画センターフェスティバル「震災後私たちは～災害時の女たちから～」	・「日本再興戦略2014」閣議決定	

年度(西暦)	土浦市女性団体連絡協議会の動き	土浦市の動き	日本の動き	世界の動き
平成27年度 (2015)	・自主事業「学ぼうシリーズV」 「私たちにとって霞ヶ浦は ～生命はくむ湖～」	・市役所本庁舎移転に伴い 男女共同参画センター移転 (本庁舎2階) ・男女共同参画センターフェスティバル 「協働で未来につなげる交流会」 ・男女共同参画講演会	・女性活躍推進 法成立	・UM Women 日本事務所開設
平成28年度 (2016)	・男女共同参画センターフェスティバル共催 ・自主事業「学ぼうシリーズVI」 「人と水」 ～第17回世界湖沼会議に向けて～	・「第3次土浦市男女共同参画推進 計画後期計画」策定 ・男女共同参画センターフェスティバル 「男女共同参画社会の実現を！ ～ひとりひとり自分らしく生きる社会へ～」	・育児・介護休業法 及び男女雇用機会 均等法などの改正	
平成29年度 (2017)	・男女共同参画センターフェスティバル共催 ・自主事業「学ぼうシリーズVII」 地域社会と「男と女」 ひとひと ～地域で幸せをつくるために～	・機構改革により 「市民生活市民活動課 男女共同参画室」へ ・男女共同参画センターフェスティバル 「男女共同参画のまち土浦 ～ひととひと共に支えあう日々を～」 ・「女性に対する暴力を運動」啓発として、 市庁舎内でパープルリボン (DV根絶のシンボル)ツリー設置		
平成30年度 (2018)	・男女共同参画センターフェスティバル共催 ・世界湖沼会議サテライトつちうらメイン大会 「霞ヶ浦の恵みの試食」実施 ・自主事業「学ぼうシリーズVIII」 土浦市男女共同参画都市宣言から6年 「～あなたのまわりはどうか変わりましたか～」	・男女共同参画センターフェスティバル 「男女共同参画のまち土浦 ～変わりゆく現代 どう生きる～」 ・パープルリボンツリー設置、市庁舎 大屋根広場パープルライトアップ開始 (以後毎年実施)	・政治分野における 男女共同参画の 推進に関する法律 交付施行	
令和元年度 (2019)	・男女共同参画センターフェスティバル共催 ・パープルリボン作り ・自主事業「学ぼうシリーズIX」 「今回の台風から学んだこと」	・男女共同参画社会に関する 市民意識調査 ・男女共同参画センターフェスティバル 「男女共同参画のまち土浦 ～知り 学び 行動へ～」	・女性活躍推進法 改正	
令和2年度 (2020)	・「防災における女性の参画について」 市長に提言書提出	・「オレンジリボン(児童虐待防止)」と 「パープルリボン」のダブルリボンツリーを 市庁舎および公民館に設置開始 (以後毎年実施)	・第5次男女共同参画 基本計画 ～全ての女性が 輝く令和の社会～	・第64回 国連 女性の地位委員会 「北京+25」 記念会合 (ニューヨーク)
令和3年度 (2021)	・コロナ禍に寄る生活と意識に関する アンケート報告書作成配布 ・自主事業「学ぼうシリーズX」 「DVと児童虐待を学ぼう」	・土浦市男女共同参画×市民協働 フェスティバル (新型コロナウイルス感染症拡大のため 講演会のみオンライン配信) 「女性の視点を取り入れた 地域災害対応力の強化」		
令和4年度 (2022)	・「ロシアによるウクライナ侵攻に抗議する 決議」表明・募金活動 ・創立30周年記念事業準備委員会発足 ・「男女共同参画都市宣言10周年」 記念式典に協力参加 ・土浦市男女共同参画× 市民協働フェスティバルに共催 ・創立30周年記念イベント実施 ・創立30周年記念誌発行	・土浦市男女共同参画都市宣言 10周年記念式典 ・土浦市男女共同参画×市民協働 フェスティバル 「地域に密着した 多世代・多様な共生のまちづくり」 ・機構改革により 「ことも未来部」新設	・育児・介護休業法 改正	



## 土浦市女性団体連絡協議会「30周年のあゆみ」実行委員会

企画担当 ◎今高博子、眞山淑枝、栗栖恵子、木野英子 ◎は委員長  
記念誌編集担当 ◎篠捷子、吉田照美、河田輝子、山田陽子  
記念イベント担当 ◎鈴木君枝、原井みつ江、矢口恵子、滝田国子、齊藤真理子、今泉芳子  
協力 樽川典子（筑波大学講師）



30周年記念事業実行委員会



記念誌担当一同

### 編集担当に関わって

「30年のあゆみ」記念誌作成にあたり、まずは、広報誌「つどい」、女性のつばさ報告書、フェスティバルでのポスター、市の広報誌「with you」等の資料の確認作業から始まりました。膨大な資料の中から掲載する写真などをカメラに撮り、スキャナーしてパソコンに取組むといった細かな作業の連続です。並行して資料から抜粋する記事の文字起こし、依頼していた原稿が届き次第の細かな作業と続きました。これまで実施したアンケート調査報告書に触れて改めての学びや気づきがあり、先人達の功績に敬意を抱きました。この記念誌を手にとつてくださる皆さまの心に残る1ページが、あれば幸いです。

最後に、数か月間にわたりご協力いただきました男女共同参画室職員の方々に深く感謝いたします。

記念誌編集担当一同

### あ と が き

土浦市女性団体連絡協議会は、創立30周年事業「ともに語ろう土浦を！」として安藤市長の講話、市議会議員との意見交換会を行いました。また、若い世代と連携して「男女共同参画のまちづくり」を目指すことを目的として高校生へのアンケート調査も行いました。

今回、初めて一冊の記念誌に残すという作業に取り組みました。編纂会議は60回を超え、時には熱く意見を交わすこともありました。男女共同参画社会の実現への想いと30年の歴史の足跡をしっかりと後世に残し、さらなる高みを目指す一助となって欲しいと願っています。多くの人々の努力の結果を振り返り、改めて私たちはエンパワーメントした今があることを再認識できました。

記憶は薄れていきますが、積み重ねてきた30年の歴史は消せません。先輩諸姉の多岐にわたる闘いともいうべき粘り強い活動の実績を、皆さまに伝えることが出来たかと思いますが、未来へとつながっていくものと確信しております。

共に歩んでくれた土浦市、並びに関係機関、市民の皆さまと男女共同参画室職員の皆さまに心より感謝申し上げます。

土浦市女性団体連絡協議会「30周年のあゆみ」実行委員一同

土浦市女性団体連絡協議会30周年記念誌

発行日 令和5(2023)年3月31日

発行者 土浦市女性団体連絡協議会

協力 土浦市市民生活部 市民活動課 男女共同参画室

